



# CSR REPORT 2021

2020年度(2021年3月期)

極東開発グループ  
CSR報告書



## 編集方針

本報告書では持続可能な社会の実現に向けた、極東開発グループの取り組みを今後の計画とともに報告しています。

対 象 組 織：極東開発工業株式会社を中心に、国内外の関係会社を含めて極東開発グループの活動を報告しています。

対 象 期 間：2020年4月1日～2021年3月31日  
(一部記事には2021年4月以降の内容を掲載しています。)

対 象 読 者：極東開発グループに関わる全てのステークホルダーの皆様

発 行 日：2021年9月

参照ガイドライン：ISO26000ガイドライン、環境省「環境報告ガイドライン(2018年度版)」、  
経済産業省「価値協創ガイダンス」、IIRC「国際統合報告フレームワーク」

## 情報開示ツールの構成



### CSR 報告書(本冊子)

当社グループの重点課題について具体的な年次の取り組み内容を報告

### IR 及びコーポレートガバナンス情報

IR レポート 有価証券報告書 コーポレートガバナンス報告書



### CSR ウェブサイト

<https://www.kyokuto.com/csr/>  
活動情報の概要を報告(基本方針、サステナビリティデータなどはこちらに掲載)

ホームページから以下の資料がダウンロードできます。

<https://www.kyokuto.com/>

- 会社案内 ● CSR 報告書 ● IR レポート ● 有価証券報告書
- コーポレートガバナンス報告書 ● 各種製品カタログ ● 各種広報資料

# CONTENTS

トップメッセージ	03
1. 極東開発グループの基盤	05
1-1. 持続的成長の歴史	05
1-2. グループの資本	07
1-3. 成長プロセス	09
1-4. リスクと機会	11
1-5. ステークホルダーとの対話／外部評価	12
2. ビジョン・成長戦略	13
2-1. 極東開発グループとSDGs	13
2-2. 中期経営計画2019-21 ～To the Growth Cycle～	15
2-3. 【特集】VOICE	17
3. 2020年度トピックス	22
4. 【地域】住み続けられる「まちづくり」	24
4-1. 各事業概要	24
4-2. 顧客満足の追求	26
4-3. 地域への参画	28
5. 【環境】地球環境に配慮した「ものづくり」	30
5-1. 環境関連データ	30
5-2. 脱炭素社会に向けて	31
5-3. 循環型社会に向けて	33
5-4. 自然共生社会に向けて	33
6. 【人】一人ひとりが尊重される「社会づくり」	34
6-1. 人材関連データ	34
6-2. 働きがいのある職場づくり	35
6-3. 労働安全衛生	36
6-4. 健康経営	37
6-5. ものづくりにおける人権配慮	37
7. 社外取締役会談	38



## 持続可能なものづくりで、 持続可能な未来を

トップメッセージ

極東開発工業株式会社  
代表取締役社長

布原 達也

新型コロナウイルスに罹患された皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、お亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げます。また、感染症拡大防止に向けて最前線で奮闘されている医療関係者の方々に心より敬意を表します。

### ウィズ・コロナの時代

2020年1月頃から世界的に感染が拡大した新型コロナウイルス。当初は、従業員とその家族への健康被害や、生産・営業活動への影響を心配しましたが、ここにきてようやく当社グループもコロナ禍での事業スタイルが定着してきました。その結果、『中期経営計画2019-21 ～To the Growth Cycle～』の中間年度にあたる2020年度の業績については、当初の目標を達成することができました。

振り返ると、これまで経験したことのない「パンデミック」という脅威に対して、私たちは考え得るあらゆる方策を試し、取り組んで参りました。その効果は多岐にわたりますが、押し並べて言えることは、「窮地だからこそできたチャレンジが功を奏した」ということです。とはいえ、まだまだやるべきことは山積しています。引き続きウィズ・コロナにおける経営体質の改善をすすめて参ります。

### 持続可能な社会の実現に向けて

主力の特装車事業は、製品の製造及び使用において、これまで多大なエネルギー消費の上に成り立ってきました。しかし今、物流や土木インフラに関わる業界では脱炭素に向けた取り組みを強く求められ、輸送機器を取り扱う私たちにとっても「地球温暖化への対応」は最優先で取り組まなければならない課題となりました。

私たちは日本政府が掲げる「2050年カーボンニュートラル」を支持し、その実現のために省エネ投資や生産方法の見直しを引き続きすすめるとともに、脱炭素に貢献する製品投入を積極的にすすめて参ります。例えば、製品の軽量化や大型化など積載量をより多く確保する取り組みは、物流の効率化を通して脱炭素の実現につながります。さらに、トラックシャシの電動化に適した製品群を開発・提供することで、持続可能な社会基盤を支えていきます。

最近では、環境事業においてリサイクル施設・設備の製造で培った破碎や資源化の技術を活かした、バイオマス事業にも注力しています。再生可能エネルギーの普及とローカル経済の活性化を促し、「再エネ型経済社会※」の実現に貢献して参ります。

### 社会から選ばれるグループへ

私たちは、SDGsへの取り組み姿勢を示した『極東開発グループ SDGs宣言』を掲げ公表しています。グループ全体で、宣言に掲げる主要3項目「地域」「環境」「人」を軸に事業活動を推進し、あらゆるステークホルダーのニーズと期待への対応とSDGsの達成を目指すことで、社会からいつまでも必要とされるグループであり続けたいと考えています。

そのためには、あらゆる場面において「多様性」を尊重しながらプラスの効果に結びつけることが肝要です。性別・年齢・国籍などの違いを尊重し、多様で豊かな視点を業務ならびにモニタリングのプロセスに加えながら、リスクに強い強靱な組織づくりを目指して参ります。

※再エネ型経済社会…再生可能エネルギーの主力電源化から一歩踏み込んだ、再エネを核とした経済社会のこと

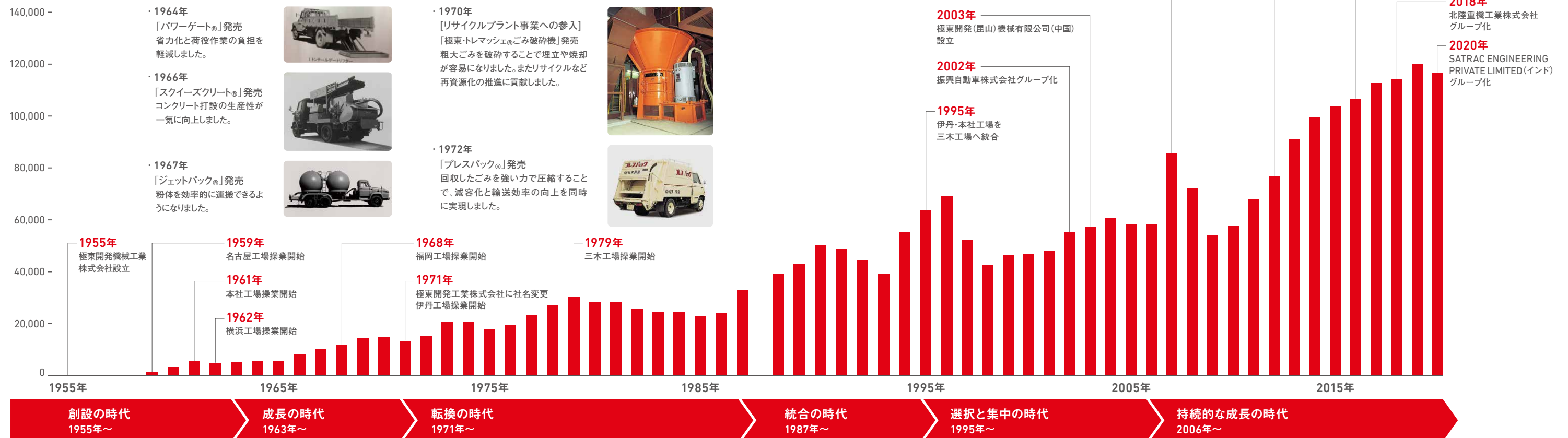


# 1 極東開発グループの基盤

## 1-1 持続的成長の歴史

当社グループは社会のあらゆるニーズを捉え、常にその発展に貢献する製品を提供してきました。今後も時代の変化に柔軟に対応し、持続可能な社会の実現に貢献し続けます。

### 売上高 (百万円)



### 関係会社情報

#### 特装車事業

##### 国内拠点

日本トレックス株式会社  
特装車の製造、販売、修理及び部品販売

株式会社エフ・イ・オート  
特装車の製造、販売及び修理  
自動車・建設機械の販売及び中古車の販売

振興自動車株式会社  
特装車の製造、販売及び修理

北陸重機工業株式会社  
鉄道車両・特装車の製造、販売及び修理

井上自動車工業株式会社  
特装車の製造、販売及び修理

##### 海外拠点

極東特装車貿易(上海)有限公司(中国)  
特装車の販売及び部品販売

極東開発(昆山)機械有限公司(中国)  
特装車の製造及び販売

SATRAC ENGINEERING PRIVATE LIMITED(インド)  
特装車の製造及び販売

PT. Kyokuto Indomobil Manufacturing  
Indonesia(インドネシア)  
特装車の製造及び販売

PT. Kyokuto Indomobil Distributor  
Indonesia(インドネシア)  
特装車の販売

#### 環境事業

極東サービスエンジニアリング株式会社  
環境整備機器及び施設の修理、運転

極東サービスエンジニアリング北海道株式会社  
環境整備機器及び施設の修理、運転

株式会社モリプラント  
環境設備プラントの設計・施工及びメンテナンス

株式会社エコファンリティ船橋  
環境整備施設の維持管理運営

#### 不動産賃貸等事業(パーキング事業他)

ささしまライブパーキング株式会社  
立体駐車場の賃貸

極東開発パーキング株式会社  
立体駐車装置の製造、販売及び修理、駐車場の経営(コインパーキング)

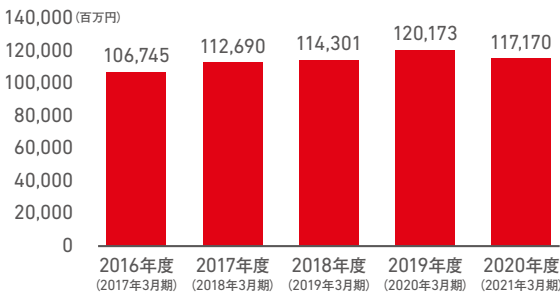
株式会社エフ・イ・イ  
食堂運営、損害保険代理業



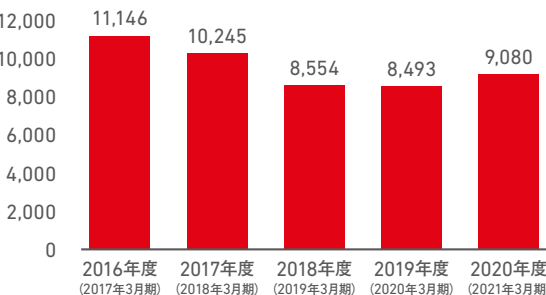
1-2 グループの資本

財務情報ハイライト (財務資本)

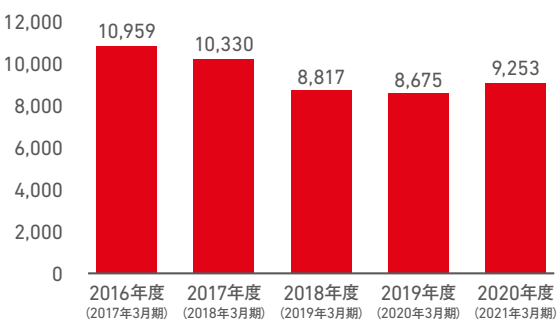
売上高 連結



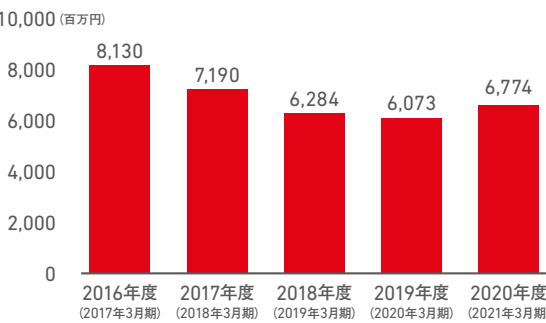
営業利益 連結



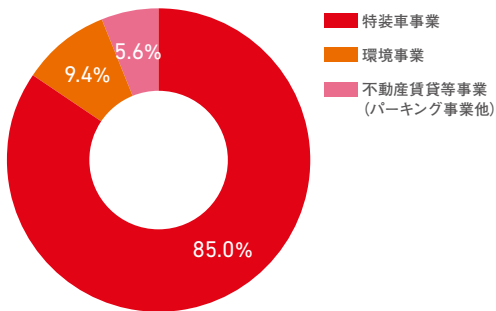
経常利益 連結



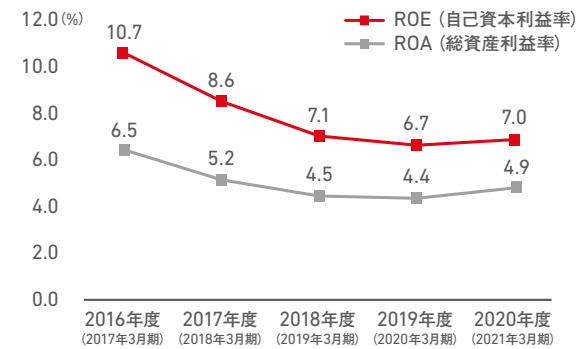
親会社株主に帰属する当期純利益 連結



セグメント別売上構成比 2020年度 (2021年3月期)



ROE/ROA 連結



従業員数 (人的資本)

セグメントの名称	従業員数(名)
特装車事業	2,535
環境事業	400
不動産賃貸等事業 (パーキング事業他)	115
合 計	3,050
※2021年3月末現在 (連結)	

諸団体との連携 (社会・関係資本)

各分野における情報収集や地域社会への貢献を目的として、多くの団体に加盟、また連携し活動をすすめています。

加盟団体数:196団体  
※2021年3月末現在 (極東開発工業単体)

国内の生産拠点 (製造資本)

中核事業への経営資源の集中を基本戦略として、生産能力の合理化、最適化及び品質改善を目的とした設備投資計画に基づき投資を行っています。

設備投資額:3,044百万円  
※2020年度実績 (連結)

研究開発活動 (知的資本)

当社グループの研究開発は、新規製品、新技術の開発、新分野の開拓、既開発製品の改良を主体とし、主に極東開発工業及び日本トレクス、極東開発パーキングが担当しています。

研究開発費:1,509百万円  
産業財産権 出願件数:71件 (特装車事業69件、環境事業2件)  
※2020年度実績 (連結)

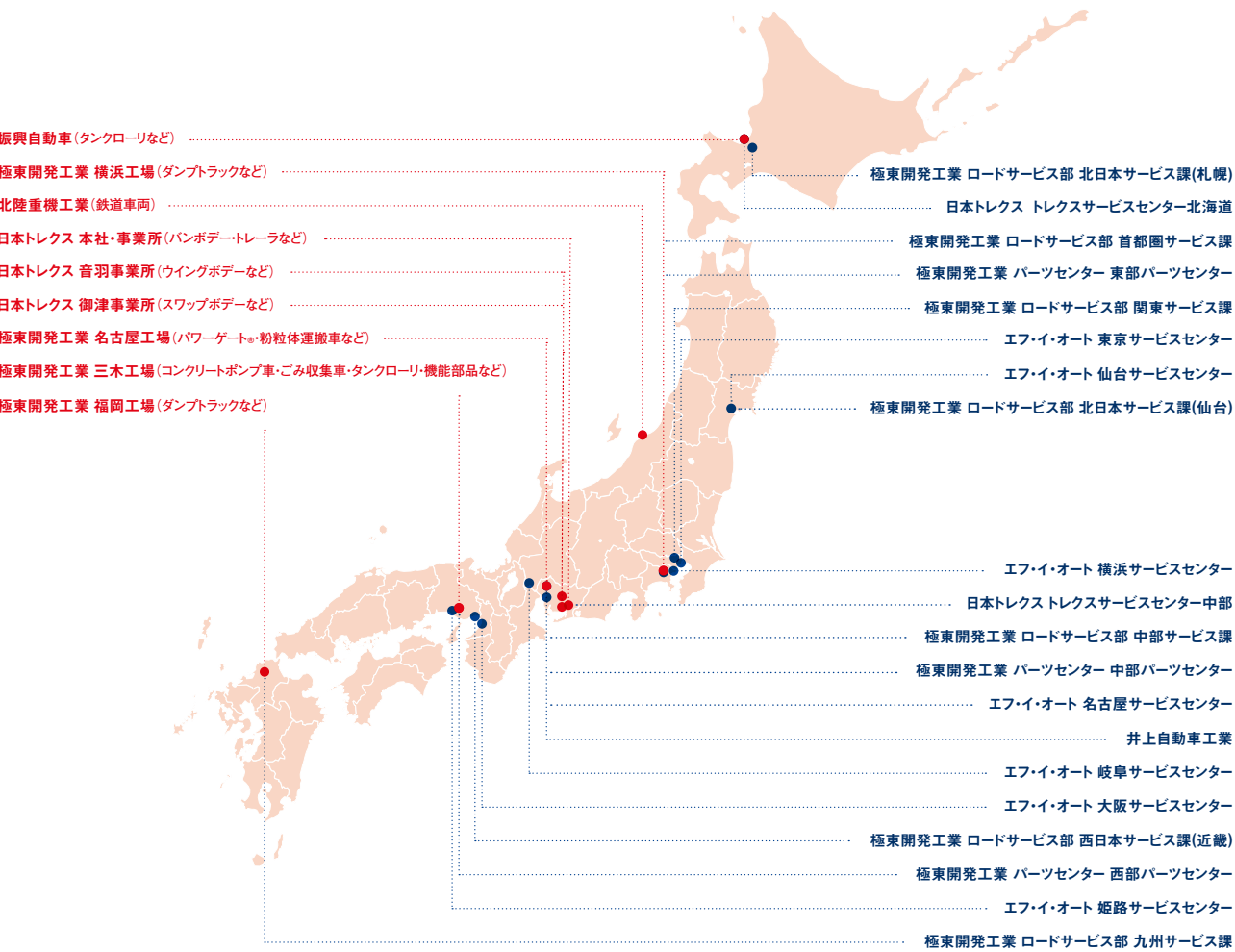
水、土地、森林などに関する影響 (自然資本)

当社グループの事業活動における、自然資本への依存度ならびに及ぼす影響度は低いと判断しています。  
また主要生産拠点において、洪水や土砂災害などの自然災害発生時に、環境へ及ぼす汚染などのリスクも低いと判断しています\*。  
※自治体発行のハザードマップを用いた社内基準による評価

国内の主要サービス拠点 (製造資本)

下記主要拠点のほか、全国のサービス工場と連携し、製品のメンテナンスや修理などを行っています。

サービス工場 (特装車事業):366社 429拠点  
※2021年3月末現在 ※極東開発工業のサービス工場



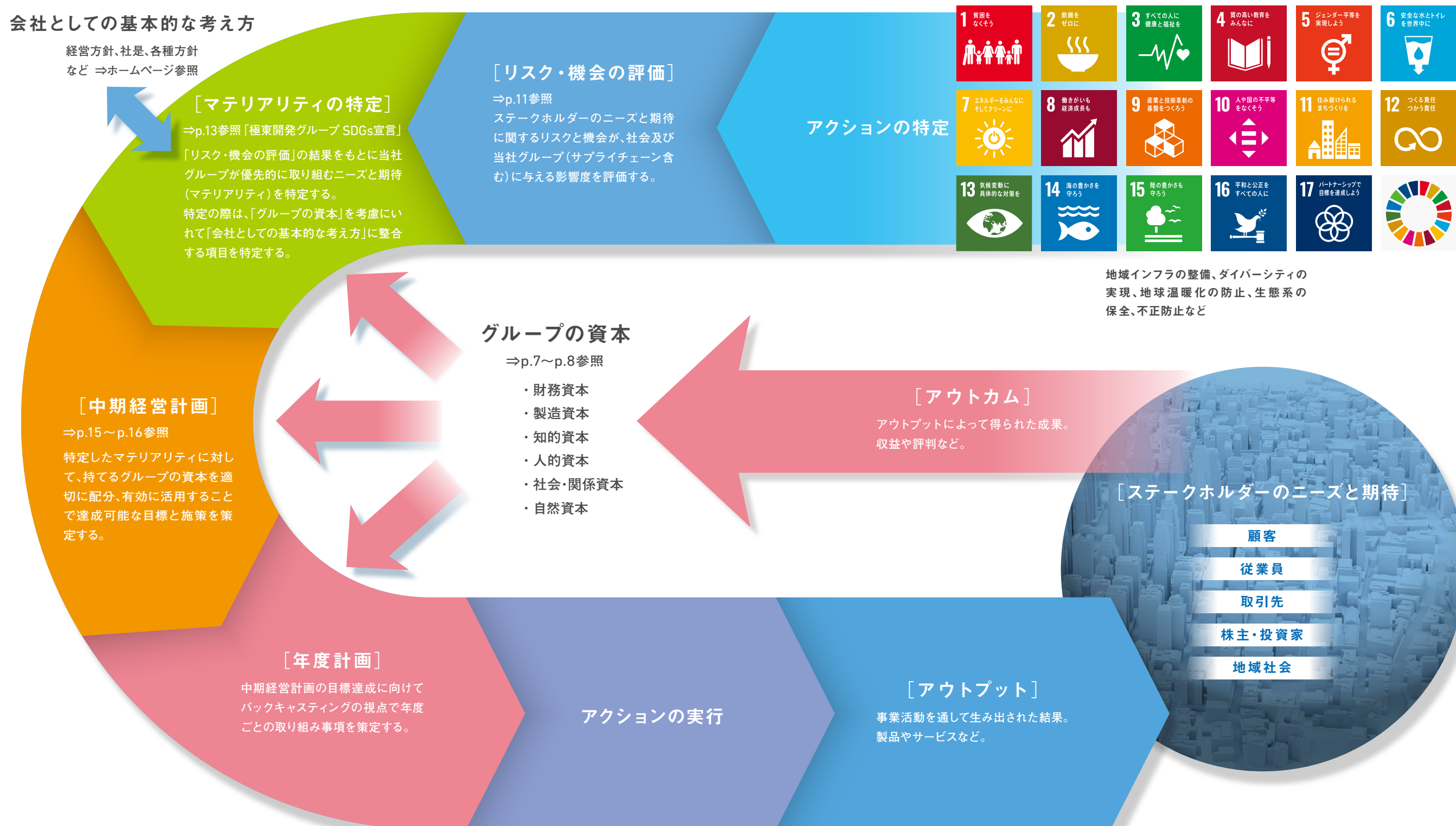


## 1-3 成長プロセス

当社グループは以下の成長プロセスを踏まえ、社会課題の解決（SDGsの達成）と企業価値向上の両立に取り組んでいます。

## 社会課題 (SDGs)

SDGsの達成を目指す。





## 1-4 リスクと機会

### リスク及び機会の特定

当社グループには、社会課題を背景に、ステークホルダーから様々なニーズと期待が寄せられます。私たちはこのニーズと期待に応えるために、ステークホルダーに関わる「中核主題」に対して、「社会的責任の原則」を果たしながら事業活動を行う必要があります。

#### 中核主題

- ①組織統治
- ②人権
- ③公正な労働慣行
- ④環境
- ⑤公正な事業慣行
- ⑥消費者課題
- ⑦コミュニティへの参画・協働

#### 社会的責任の原則

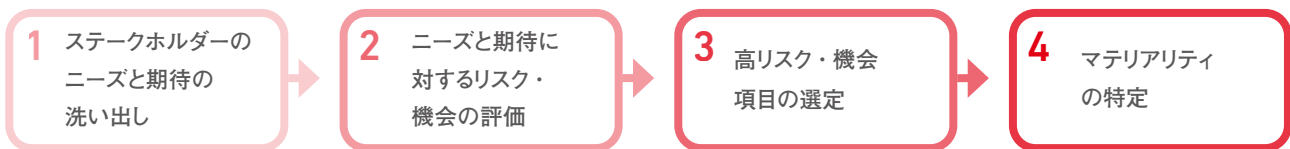
- ①説明責任
- ②透明性
- ③倫理的な行動
- ④ステークホルダーの利害の尊重
- ⑤法の支配の尊重
- ⑥国際行動規範の尊重
- ⑦人権の尊重



当社グループは、「ステークホルダーの関心・影響」と「当社グループにとっての重要性」の2つの視点から「リスクと機会」を評価し、優先的かつ重点的に取り組むべき課題「マテリアリティ」を特定します。

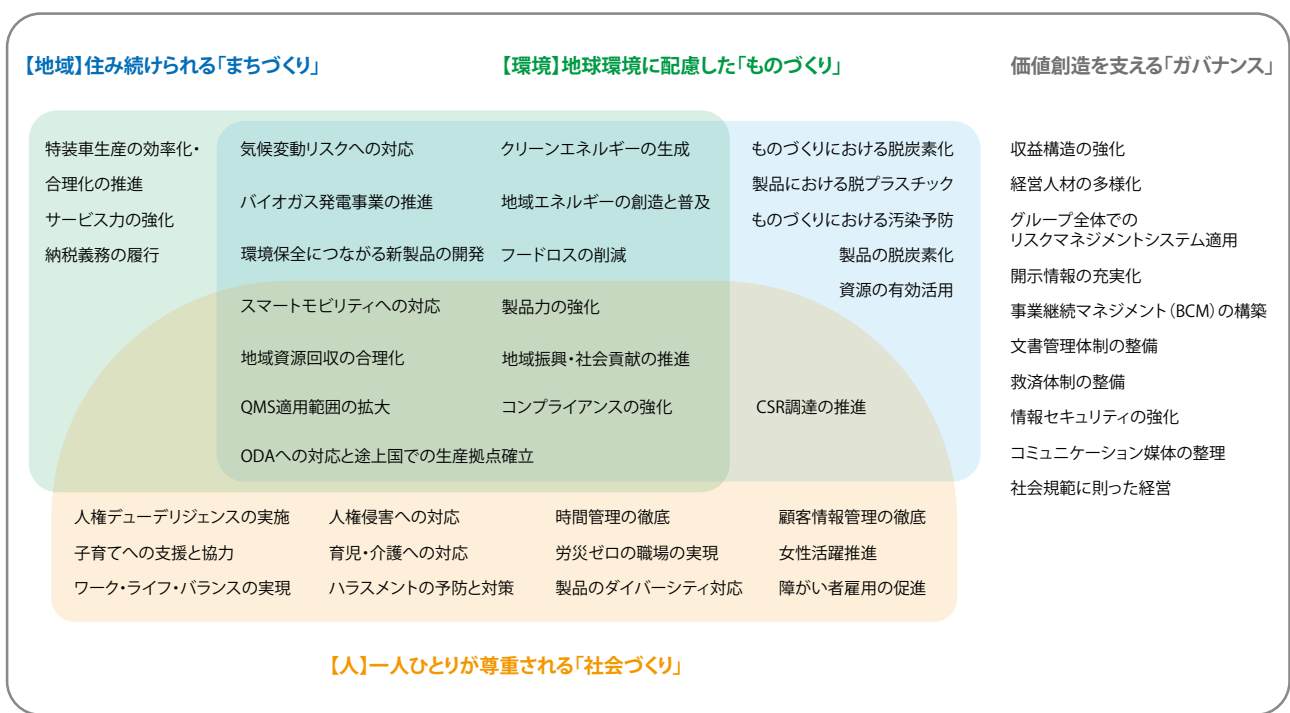
そしてそれらを経営計画に掲げると同時に、部門の取り組みに落とし込むことで、事業を通じて社会的責任を果たしていきます。

### マテリアリティ特定の流れ



※参照ガイドライン：SDGs、GRI スタンダード、ISO26000 など

### マテリアリティと「極東開発グループ SDGs宣言 (p.13参照)」の関係



## 1-5 ステークホルダーとの対話／外部評価

当社グループの主要なステークホルダーは、「顧客」「従業員」「取引先」「株主・投資家」「地域社会」の皆様です。ステークホルダーとの対話を通じて、それぞれの課題や期待に応えられるよう取り組みをすすめています。

### ステークホルダーとの対話状況

ステークホルダー	コミュニケーションの事例	頻度	企業活動への反映	主な関連ページ
顧客	各種講習会	随時	相互理解の促進、より良い関係の構築	p.26～p.27
	お客様相談窓口		より良い製品づくり	
	リコール情報の公開			
従業員	各種研修・評価面談	随時	職場環境の改善、労務・人事施策の見直し	p.35～p.37
	従業員意識調査			
	団体交渉・労使協議会		労使関係の強化 働きやすくやりがいのある職場づくり	
取引先	各種会議、研修	随時	相互理解の促進、より良い関係の構築	p.27
	取引先評価			
株主・投資家	定時株主総会	年1回	対話を通じた経営の質の向上	ホームページ
	決算説明会			
	「有価証券報告書」及び「四半期報告書」発行	年4回		
	「IRレポート」発行	年2回		
地域社会	イベント・工場見学会の開催、地域イベントへの参画	随時	相互理解の促進、より良い関係の構築	p.28～p.29
	NPOとの協働		社会ニーズの把握	p.8・p.14
	経済・業界団体・地域団体への参加			

### 外部評価

#### グッドデザイン賞

2020年10月、木質ペレットエア搬送ユニット「JETCUBE® (ジェットキューブ)」及び木質チップ乾燥コンテナシステム「Kantainer® (カンテナ)」が「2020年度グッドデザイン賞」を受賞しました。

#### 表彰のポイント

##### JETCUBE®

- ・高所作業をしなくてもペレットをサイロにエア搬送できる点
- ・女性や高齢者でも安全・手軽に作業ができる汎用的なデザインなど



木質ペレットエア搬送ユニット「JETCUBE® (ジェットキューブ)」

##### Kantainer®

- ・排熱活用を前提としている点
- ・今後の再資源利用可能なエネルギーへの取り組みとして期待できる点など



木質チップ乾燥コンテナシステム「Kantainer® (カンテナ)」

#### 健康経営優良法人

極東開発工業と日本トレクスは、経済産業省と日本健康会議が選出する「健康経営優良法人2021」に認定されました。ウォーキングキャンペーン、食堂での健康対策メニューの提供など様々な施策を実施し、従業員が心身ともに健康で、いきいきと働くことができる職場環境づくりに努めています。



#### CSR企業調査

極東開発工業は、東洋経済新報社が行った「CSR企業調査2021」において「離職する人が少ない大企業ランキング」で7位の評価を受けました。



離職率:1.4%\*、7位(1614社中)

※2018年度の従業員数のうち、2019年度に離職した人数

#### 航空自衛隊様より表彰

2020年11月、日本トレクスは長年の装備品の納入により、航空自衛隊様の発展に貢献してきたことを評価され、感謝状をいただきました。日本トレクスは1978年から「1t水タンクトレーラ」などの車両を航空自衛隊様へ継続的に納入。2019年には「かく座機収納トレーラ」を硫黄島に納入し、航空救難態勢の確立にも携わっています。

#### ISO認証

当社グループでは、品質マネジメントシステム (ISO9001) と環境マネジメントシステム (ISO14001) の認証を取得しています。ISOに基づくマネジメントシステムを適用することで、品質ならびに顧客満足の向上と環境保全に努めています。



# 2 ビジョン・成長戦略

## 2-1 極東開発グループとSDGs

SDGs(持続可能な開発目標)はあらゆる社会課題の解決に全世界が取り組み、「誰ひとり取り残さない世界」を実現させるための17の目標です。

当社グループは「極東開発グループ SDGs宣言」を表明し、SDGs達成につながる事業活動や様々な取り組みをグループ全体で推進しています。

### 極東開発グループ SDGs 宣言

当社グループは、「技術と信用を重んじ、一致協力して、企業の生々発展に努力し、広く社会に奉仕する」を経営理念として掲げています。

この経営理念に基づき、「地域」「環境」「人」に関わる社会課題の解決と企業の経済的価値の追求を両立させ、「SDGs(持続可能な開発目標)」の達成に向けて積極的に取り組んで参ります。

**KYOKUTO**



### 取り組み内容とSDGs項目

#### 【地域】住み続けられる「まちづくり」⇒p.24～p.29参照

- ・災害に強い都市基盤の整備に貢献します。
- ・効率的な輸送や省力・省人化を実現し、あらゆる分野で人手不足解消に貢献します。
- ・資源リサイクルの基盤づくりをすすめ、循環型社会の形成に寄与します。



#### 【環境】地球環境に配慮した「ものづくり」⇒p.30～p.33参照

- ・サプライチェーンの全ての段階で、環境負荷低減に努めます。
- ・製品の3R(リデュース・リユース・リサイクル)や省エネを推進し、環境に配慮した製品づくりをすすめます。



#### 【人】一人ひとりが尊重される「社会づくり」⇒p.34～p.37参照

- ・全ての従業員がやりがいと働きがいを持って、能力を最大限発揮できる職場環境の実現に取り組みます。
- ・全てのお客様に配慮した、安全かつ誰もが使いやすい製品づくりをすすめます。
- ・サプライチェーンの全ての段階において、人に配慮したもののづくりをすすめます。



### SDGs に関する啓発

従業員一人ひとりが、日々の業務や日常生活でSDGsを意識して行動できるよう、様々な啓発活動をすすめています。

### 「My SDGs2021 (私のSDGsアクション)」の募集

極東開発工業では、従業員を対象に「My SDGs2021(私のSDGsアクション)」として「2021年度にチャレンジする、地域・環境・人に優しい行動」を募集しました。

提出人数:827名(提出率70.7%)

提出されたSDGsアクションの総数:1,381個

### SDGsアクションの一部



- ・工場排水の安定化と薬剤使用量の見直し
- ・開発や実験の際に、有害物質を出さない
- ・途上国に給水車支援の提案をする



- ・知見を後進に残すために、教育資料を整える
- ・資格取得の勉強を行い、技術力向上に努める
- ・誤記に注意し正確な製作指示を行う



- ・家族で外国語を学習し、異文化を理解する
- ・国や人種の垣根のない製品と雇用環境をつくる
- ・多様な文化、考え方を柔軟に受け入れる



- ・WEBツール活用による作業の効率化
- ・営業の際、安全運転と効率の良い経路を設定
- ・家庭内の家電製品を省エネ型に買い替える



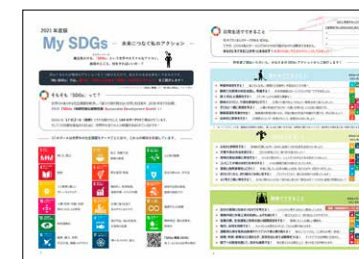
詳細はこちら

### 各種広報物の作成・発行

従業員、取引先、地域の学生、就活生など様々なステークホルダーの皆様に活用いただけるSDGsの啓発資料を発行しています。



小冊子  
「極東開発工業×SDGs」



学習資料  
「My SDGs—未来につなぐ私のアクション—」

### SDGs パートナースhip

様々な企業や行政、諸団体との連携をすすめ情報交換や協業を通じた課題解決に取り組んでいます。

### 国連グローバル・コンパクト(UNGC)

2016年11月、極東開発工業は国連グローバル・コンパクト(UNGC)に署名しました。UNGCの分科会では、CSRに関わる最新動向や各社の取り組み事例の共有、企業のCSR推進を支援するツールの制作などに取り組んでいます。国連が求める「人権」「労働」「環境」「腐敗」に関わる10の行動原則を実践し、国際社会の一員として役割を果たしていきます。



国連グローバル・コンパクト(UNGC)

### 関西SDGsプラットフォーム

2018年2月より、極東開発工業は「関西SDGsプラットフォーム」に参加し、様々な団体・組織との連携による持続的社会の構築に向けて取り組んでいます。

### SDGsユースミーティング

2020年8月、極東開発工業は関西SDGsプラットフォームと公益社団法人2025年日本国際博覧会協会が主催する「SDGsユースミーティング」に参加し、当社グループのものづくりを通じた持続可能な未来への取り組みについてパネルディスカッションを行いました。

【タイトル】世界の未来をつくる『ものづくり』～日本の技術で持続可能なまちづくりを支える～

### かながわSDGsパートナー

2019年4月、極東開発工業は「かながわSDGsパートナー」に認定されました。神奈川県や県内企業、団体と連携しSDGsの普及啓発活動やSDGsを通じた新規ビジネスの構築などにつなげていきます。

### 地方創生SDGs官民連携プラットフォーム

2020年5月より、極東開発工業は「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」に参加しています。地方自治体や地域企業と連携を図り、地域の課題解決や新たなイノベーションの創造を目指しています。



## 2-2 中期経営計画2019-21 ~To the Growth Cycle~

### 基本方針

#### 1 生産性の向上と利益体質の強化

収益基盤強化に向けた設備投資効果の最大化を図ります。

また、IoTやAIなどの活用をすすめるとともに、より高付加価値・高品質な製品・サービスを提供します。

#### 2 将来の収益源の創出

海外事業の収益基盤確立、新分野の事業確立などに向け、グループの既存リソースやアライアンス、M&Aを活用しつつ、積極的に経営資源を投入します。

#### 3 企業品質の向上と社会的価値の深化

安全・コンプライアンスの徹底を基本とし、さらに、働き方改革と従業員育成、事業を通じた社会貢献を推進します。

### 進捗ハイライト

#### 基本方針

#### 2020年度 実施事項

#### 極東開発グループ SDGs宣言 (p.13参照)

##### ○ 利益改善と拡販に向けた取り組み

- ・重点製品の拡販、利益確保を重視した営業活動。
- ・期中生産・期中売上への注力。

【地域】

##### ○ 生産の合理化・効率化に向けた生産体制整備

- ・中型リヤダンプトラックの製缶ボデーラインリニューアルによる自動化の推進。(p.23参照)
- ・仕様の標準化推進。
- ・業務効率化プロジェクトの推進やパワーゲート®の生産性向上・物流の改善。



極東開発工業 三木工場の自動溶接ロボット

【地域】

【環境】

##### ○ 地域社会の発展に向けた製品の普及

- ・【環境事業】鹿角広域行政組合様より不燃ごみリサイクルセンターの建設工事、南薩地区衛生管理組合様より「(仮称)南薩地区新クリーンセンター施設整備及び運営事業」の受注。
- ・【パーキング事業】立体駐車装置遠隔呼び出しシステムなど差別化製品の開発。

【地域】

##### ○ IoT・AIなどを活用した製品・サービス開発

- ・ごみ収集車とパワーゲート®ユーザー向けに「K-DaSS®(ケーダス)」のアプリ・Webサービスを展開開始。(p.22参照)
- ・画像認識AI搭載のごみ収集車安全支援システム「KIES®(キース)」を発売。(p.37参照)

【地域】

【人】

#### 基本方針

#### 2020年度 実施事項

#### 極東開発グループ SDGs宣言 (p.13参照)

##### ○ 海外事業の収益基盤確立

- ・インドビジネスの再編・強化を図り、SATRAC ENGINEERING PRIVATE LIMITED(SATRAC社)をグループ化。(p.22参照)



SATRAC社 トレーラ

【地域】

#### 2 将来の収益源の 創出

##### ○ 新規分野での事業推進

- ・林業製品「JETCUBE®(ジェットキューブ)」と「Kantainer®(カンテナ)」が「2020年度グッドデザイン賞」を受賞。(p.12参照)

【地域】

【環境】

##### ○ 生産基盤の強化

- ・生産能力増強のため、北陸重機工業の工場建て替えに着工。

【地域】

##### ○ 働き方改革と従業員育成 (p.35~p.36参照)

- ・コロナ禍への対応として、在宅勤務・時差出勤・時短勤務などを導入、テレビ会議・WEB会議の活用。
- ・働き方改革プロジェクトの推進。(RPA/AI-OCR試行、名刺管理システム、費用精算新システム導入など)
- ・新勤怠管理システム稼働、動画研修(PHP研究所)の開講。
- ・安全作業研修車による安全体感教育。



安全作業研修車

【人】

#### 3 企業品質の向上と 社会的価値の深化

##### ○ 社会貢献・BCPの推進

- ・お客様の業務効率や安全性向上につながる製品・サービスの開発・販売。
- ・林業製品・バイオマス事業やODA案件対応などの推進。
- ・三不活動「不良品を作らない、流さない、受け取らない」の現場定着。(p.26参照)
- ・ものづくりの向上と技能伝承を目的とした内製化の推進。
- ・耐震診断の実施、建て替えと補強工事の検討・準備。
- ・北陸重機工業の新事務所棟完成。

【地域】

【環境】

【人】



「三不活動」の推進



## 2-3【特集】VOICE

極東開発工業株式会社  
取締役 常務執行役員  
特装事業部長  
加藤 定宣

### 特装車事業

## 特装車事業とSDGsは とても身近

『極東開発グループ SDGs宣言』を制定してから2年が経ちました。それ以前からSDGsについては経営の中でも取り入れていたましたが、従業員の意識はどのように変化してきましたか。

社内外のあちこちでSDGsの文字やアイコンを見かけるようになりました。社会全般にSDGsのシンプルな目的が浸透してきたのに合わせて、当社グループの従業員にもその考え方が定着してきたように思います。特装事業部は「建設」「物流・省力」「環境」の3分野に関わる特装車を製造販売しており、いずれもお客様のニーズに合わせたオーダーメイドの製品づくりを基本としています。

また社会インフラや環境・衛生などのSDGsのゴールに直接貢献できる製品も多いため、グループ全体で製品開発の段階から最終的にお客様に納める製品の形となるまで、「社会への貢献・持続可能性の維持」への意識をより高めて、ものづくりに取り組んで参りたいと考えています。

ものづくりや製品使用において、CO<sub>2</sub>排出量の削減は大きな課題です。特装車事業にはどのような影響があるのでしょうか。

乗用車だけでなくトラックにおいても、CO<sub>2</sub>排出削減は今後の必須課題です。

現段階での電気自動車(EV)や燃料電池自動車(FCV)などの次世代トラックでは走行することそのものに主眼が置かれています。そのため、架装重量や架装スペースにおける制約が大きくなり、その解決が当社グループの製品開発の命題となるでしょう。またサービス業務においても新たな知識が必要となるなど、様々な局面で乗り越えなければならないハードルが数多く存在すると思います。

また一方、当社グループのものづくりの過程においても、作業工程の自動化・ロボット化※1や「三ない活動※2」(不良品を作らない、流さない、受け取らない)の推進によるムダ減らしなど、CO<sub>2</sub>排出削減につながる様々な活動に取り組んでいます。

業界全体で共通の認識を持ち、今後も協業しながら積極的にCO<sub>2</sub>排出削減の対応をすすめて参ります。

日本国内においては、「脱炭素」と同時に少子高齢化に伴う働き手不足が大きな問題となっています。この問題に特装事業部はどのように向き合っていくのですか。

ドライバーの高齢化はすでに大きな社会問題となっています。一方、ネット通販の普及などによって小口荷物の取り扱いには年々増加傾向にあり、トラック業界全体でのドライバー不足は当面続くと考えられます。そんな中、輸送の効率化をすすめる上で当社グループの日本トレクスが手掛けるトレーラの技術は、今後益々注目されると思っています。ダンブトレーラははじめ様々な特装車においてグループ間で機能的な融合(フュージョン)をすすめ、時代のニーズに対応して参りたいと考えます。

車両を大型化することで輸送効率の向上につなげていくわけですね。それ以外にはどのような解決策があるのでしょうか。

トラック業界でも、今は当たり前のように女性ドライバーの姿を見るようになりました。また、高齢でも現役で活躍されている方も数多くいらっしゃいます。

このような状況の中、人によって製品の使いやすさに格差があってはなりません。誰にとっても安全・安心に使っていただける製品(ユニバーサルデザインを取り入れた製品)を提供し続けることが、当社グループの製品の信頼を築くと同時に、業界全体の活性化にもつながると考えています。

製品やユーザーの多様化だけでなく従業員の多様化もすすんでいます。たくさんの人が働く工場において、ダイバーシティに関してはどのように取り組まれているのでしょうか。

国内の製造業に共通する人手不足を反映してか、最近は様々な経歴の方が私たちの職場で作業をされています。また、ものづくりについて一番大切なのは、働く人の安全と健康。これに尽きます。

労働災害や熱中症を防ぐための作業環境改善をすすめ、誰もが快適に使用できる保護具や作業着を採用するなど、ダイバーシティに対応した職場環境づくりを推進しています。

一人ひとりが自分らしく能力を発揮できる、ものづくり企業であるために、これからもグループ全体のシナジー効果を発揮することによって、社会に貢献し続けたいと思います。

※1 自動化・ロボット化の推進…p.23参照

※2 三ない活動…p.26参照

### 環境事業

## 次世代へつなぐ、地域・環境への取り組み

環境事業部のビジネスはどのようなものですか。

環境事業部では、主に自治体向けのリサイクル施設の設計・施工と、これら施設の運転受託やメンテナンスなどを行っています。リサイクル施設と一括りに言っても、粗大ごみや不燃ごみを細かく破碎する施設、資源ごみのリサイクルをする施設など様々あり、工事範囲は多岐にわたります。また新たな分野として、バイオガス発電施設や林業関連の製品を手掛けるバイオマス事業にも取り組んでいます。

環境事業が始まったきっかけをお聞かせください。

当社グループの環境事業は、「極東・トレマッシュ®ごみ破碎機」(堅型高速回転式破碎機)を欧州より技術導入したところからスタートしました。初号機は1970年、千葉県松戸市様へ納入しています。当時は高度経済成長期の真っただ中にあり、経済発展の裏で増加する、大量かつ多様なごみの処理が社会問題となっていました。そんな中、何でも破碎することのできる極東・トレマッシュ®は、ごみの減容化やごみ焼却施設の燃焼効率改善の面で大活躍しました。それから50年が経過した今、当社グループの破碎処理技術は業界でもトップクラスの評価をいただいています。コンパクトな施設設計によって省エネを実現している点や、処理物に爆発性危険物が混入していた際の爆発・火災対策が高く評価されています。

これからの日本で想定される、廃棄物処理分野での課題とは何ですか。

少子高齢化による地方都市の人口減少は、廃棄物処理分野にも大きな影響があります。施設の処理効率を考えると、常に一定量以上の廃棄物があることが望ましいのですが、過疎化がすすんだ地域ではその量が確保できません。そこで回収エリアを統廃合し、広い範囲の廃棄物を一つの大きな施設で処理する「広域化」が最近では主流となっています。広域からの資源回収を効率的に行うために、各回収拠点と処理場との間に設置する「中継施設」は、これから需要が見込まれる分野として注目しています。今後も日本のあちこちで過疎化がすすみ、このような課題が出てくるでしょう。

う。グループの力で課題解決に全力で貢献していきたいと考えています。

廃棄物処理業界も、時代の流れを受けて大きく変わろうとしています。環境事業部では持続可能な社会の実現にどのように貢献していると考えていますか。

冒頭でも触れましたが、環境事業部ではバイオマス事業に取り組んでいます。

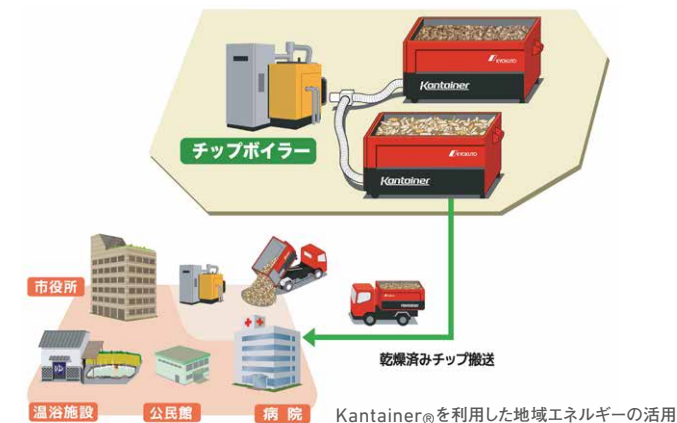
DOWAホールディングス様に納入した岡山県のバイオガス発電施設(2021年1月竣工)は、食品メーカーやスーパーから出た生ごみ・食品残さをメタン発酵させ、発生したガスで発電を行う施設です。

また地域のエネルギー源として、当社グループの木質チップ乾燥コンテナシステム「Kantainer®(カンテナ)※」で乾燥させた剪定枝や木質チップを、ボイラーで燃焼し温水利用する取り組みを兵庫県ですすめています。

バイオマス事業は、循環型社会や脱炭素社会の実現だけでなく、「エネルギーの地産地消」を通じて強靱な地域社会づくりの実現にも貢献できる分野なのです。

私たちの子孫に持続可能な未来を受け渡すためにも、これからも事業部全体で力を合わせ、今すべきことを考えながら社会へ貢献し続けて参ります。

※ Kantainer®(カンテナ)…p.12参照



Kantainer®を利用した地域エネルギーの活用

極東開発工業株式会社  
取締役 執行役員  
環境事業部長  
堀本 昇





極東開発パーキング株式会社  
代表取締役社長  
栗山 裕章

## パーキング事業

# 人とのつながりで実現する、社会への貢献

**特装車事業、環境事業に続いて、1990年頃からスタートしたパーキング事業ですが、どのような活動をしているのでしょうか。**

パーキング事業は大きく二本の柱で活動しています。一つは、マンションやビルに設置する機械式立体駐車装置の製造販売とメンテナンス。もう一つは、「P.ZONE®」の商標を付したコインパーキングの運営と管理です。

これまでに、立体駐車装置は約2,900物件・8万台。コインパーキングは約650物件・1万台を超える実績があり、今では特装車・環境に並ぶ中核事業となりました。

**パーキング事業の使命を教えてください。**

そもそもパーキング事業は、1990年代に日本で社会問題となった、駐車場不足へ対応するために始まりました。当時は様々な企業が立体駐車装置を手掛けていましたが、当社グループはこれまでにない防錆性の高い構造を他社に先駆けて開発し、お客様の支持を得てきました。

またその後、駐車違反や空き家の増加なども社会課題となっていることを受け、土地の有効活用を目的にコインパーキング事業も開始し、パーキング事業を拡大してきました。

社会の課題に積極的に耳を傾け、解決する姿勢は今も当社グループの強みであり、それこそが使命といえるでしょう。

**自動運転の技術開発がすすむ一方、最近では若者の車離れや脱炭素化への対応などが求められています。パーキング事業は今後どのように対応していくのでしょうか。**

政府は脱炭素社会の実現に向けて、「2030年半ばに、ガソリン車の新車販売をゼロにする」と明言しました。それに伴い、今後立体駐車装置やコインパーキングの分野でも、電気自動車（EV）充電器など電化に関わるインフラ整備が加速度的にすすむでしょう。私たちとしては電気系の技術者育成も含め、これらに対応していかなければなりません。

また現在コインパーキング事業では、利用者様により安全で快適

に駐車場をご利用いただくために、ロック板を排したフラップレスなパーキングの拡充やキャッシュレスへの対応をすすめています。

誰もが必要に合わせて手軽に車を利用できる社会が、自動車分野におけるカーボンニュートラルの実現には必須だと考えています。その一環として、現在レンタカー会社と協業したカーシェア事業などにも取り組んでいます。

**変化する社会のニーズに応え続けているパーキング事業ですが、地域社会に根差して活動する上で最も大切なことは何でしょうか。**

新型コロナウイルスの影響で、コインパーキング業界は利用者が減り打撃を受けています。しかし当社グループは幸いにも、取引先である地主の皆様と良好な関係づくりができていたことで、影響を最小限にとどめ2020年度も利益を確保できました。

SDGsの考えとも共通するところがありますが、事業をすすめる上で重要なことは、取引先や顧客、従業員、地域社会など全てのステークホルダーの方々との関係づくりと考えています。みんなが幸せでいられる事業づくりのために、今後も未来へ目を向け、様々な方向へ耳を傾けながら取り組みを推進したいと思っています。



インドネシアで竣工した大規模立体駐車装置

## 海外事業

# グループの力で世界の持続可能な発展へ

**極東開発グループの海外事業についてお聞かせください。**

当社グループの海外における事業展開は、中国・インド・インドネシアの3国に構えた拠点を中心に、現地ニーズに合った特装車の生産と販売を行っています。それぞれの拠点で現地採用をすすめており、製品による貢献だけでなく、雇用や経済発展の側面でも皆様に喜んでいただいています。

また、グループの拠点があるアジア以外の地域に対しても日本の工場生産した製品を輸出し、現地の課題解決を支援しています。これまで中南米や中東やアフリカなどの途上国を中心に、世界中に当社グループの特装車を送り出してきました。

**途上国の課題は多岐にわたりますが、具体的にはどのような製品の需要が多いのでしょうか。**

国や地域によって求められる製品は様々です。

たとえば、水道インフラが行き届いていない地域からは給水車の注文をよくいただきます。これまでもコンゴ、スーダンなどのアフリカ諸国や太平洋諸島諸国を中心にODA（政府開発援助）を通して、給水車を数多く輸出してきました。

また、衛生環境が問題となっている地域にはごみ収集車を輸出しています。記憶に新しいところでは2019年度、キューバに向けてごみ収集車100台を納入し、首都ハバナが抱えていた慢性的なごみ問題の解決に貢献しました。

もちろんそれ以外も、多くの国に交通インフラ整備や物流支援につながる製品などを提供しています。最近では新型コロナウイルスへの対応として、ワクチン輸送車や移動診療車などの提案もすすめており、社会の変化に合わせた迅速な対応ができるよう、日々活動をしています。



スーダンに納入した給水車

**人口増加と経済発展という観点では、インドの成長が今後注目されると思いますが、この度グループに加わったSATRAC ENGINEERING PRIVATE LIMITED（以下、SATRAC社）について教えてください。**

確かにインドは発展の余地を多く残しています。逆にいうと、私たちがこれまで国内や他のアジア地域で培ってきた技術やノウハウを注ぎ込む余地も多いということです。

そのために、これまで現地で多くの実績を積み重ね、顧客からの信頼も厚いSATRAC社をグループ化し、インドでの活動地盤を強化しました。インド国内は新型コロナウイルスで混乱の最中ではありますが、SATRAC社は順調に業績をあげています。

**インドをはじめ世界にはこれから発展していく地域もたくさんあります。その一方で、環境や社会との調和のとれた発展が必要不可欠だといわれています。今後、海外への事業展開において当社グループはどのように貢献していくべきでしょうか。**

現地の人の声に応えるのはもちろんのこと、自然環境や地域社会にも配慮した製品を提供することが私たちの使命です。安全で使いやすいだけでなく、耐久性があって末永く使っていただける製品が、本当の意味で「いい製品」です。もちろん、ムリな使い方をして壊れることがないよう、正しい使い方やメンテナンス方法を指導するといったことも私たちメーカーの「つくる責任」だと思っています。

また、国内同様に海外においても「お客様や市場から求められる製品、品質の良い製品を適正価格で」というポリシーは変わりません。そのためにも中国・インド・インドネシア、それに日本国内に構えた事業拠点を効果的に使い、相乗効果をフルに発揮することで世界の持続可能な発展に貢献していきます。



極東開発工業株式会社  
取締役 常務執行役員  
海外事業部長  
則光 健男



## 管理本部

## 未来に続くグループであるために

管理本部の活動概要をお聞かせください。

管理本部は、当社グループが持続可能な組織であり続けるための基盤づくりをすすめています。

労務管理や人材育成、安全な職場づくり、決算関連業務、法務・広報やIR活動、中期経営計画の策定、ブランディング、情報セキュリティ、CSR活動など業務の範囲は多種・多岐にわたります。

**強固な基盤づくりには、それだけ多様な取り組みが必要なのです。幅広い分野で活動を推進している管理本部ですが、その使命は何でしょうか。**

管理本部は、上場企業として極東開発工業の各事業部及びグループ会社を支援することを使命としています。

企業にとって業績確保と利益追求はもちろん大切なのですが、それだけでは経営理念に掲げている「広く社会に奉仕する」という目的は果たせません。

管理本部は、従業員の皆様をはじめ顧客、取引先、株主・投資家、地域社会の皆様など、全てのステークホルダーのニーズと期待に応えるために必要な取り組みを模索し、活動することで企業価値の向上を目指しています。

**いまだ終息の目途が立っていない新型コロナウイルスですが、極東開発グループではどのような働き方の変化がありましたか。**

当社グループでは、2019年度から「働き方改革プロジェクト※1」を立ち上げ、業務効率の向上や職場環境の改善、女性活躍推進などに取り組んできました。2020年度からはコロナ禍への対応として、在宅勤務やWEB会議、時差出勤などが導入され、グループ内の働き方も多様になりました。

アフターコロナにおいても引き続き働き方の変革を推進し、当社グループに関わる人たちがいきいきと、やりがいを持って働き続けられる職場づくりをすすめていきます。

**極東開発工業と日本トレックスは「健康経営優良法人2021」に認定されました※2。働く人の健康に対して、管理本部ではどのような考えをお持ちでしょうか。**

誰もがいきいきと活躍する職場には、そこで働く人々の心と体の健康が不可欠です。当社グループでは、労働安全衛生と健康経営を「企業の最重要ファクター」と考え、健康保険組合や労働組合と協力しながら、あらゆる施策に取り組んでいます。（詳細はp.36～p.37参照）様々な人が働く職場では多様な価値観が存在しますが、その多様性を受け入れ、価値として活かせる環境づくりを推進することで、ハラスメントやメンタルヘルス不調が発生しないグループを目指しています。今後も当社グループが重点的に取り組むべき健康課題や安全面での課題を洗い出し、積極的に活動を推進して参ります。

**SDGsの大きなテーマは「持続可能性」ですが、BCP（事業継続計画）についてはどのように取り組んでおられますか。**

近年被害が増大している自然災害に対しては、オフィスや工場などの耐震補強のほか、生産の停滞に備えたサプライヤーのリスク評価もすすめています。もちろん事業継続に関わるリスクは、自然災害だけではなくありません。

サプライチェーン内での不祥事やグループ内でのトラブル、それに新型コロナウイルスのようなパンデミックにも対応が必要です。これら事業継続に関わる重点課題は、グループ全体のマネジメント体系の中で取り組みを推進することが重要です。

将来にわたって幅広く社会から選ばれ続ける企業であるためには、リスク体制を強化するとともに社会の変化を好機として捉え、飛躍につなげることが求められます。私たちはこれからもステークホルダーと絶えず対話を行いながら、多くの方々へ支持されるよう挑戦を続けていきます。

※1 働き方改革プロジェクト…p.35参照

※2 健康経営優良法人認定…p.12参照

極東開発工業株式会社  
取締役 常務執行役員  
管理本部長  
原田 一彦

自動化の推進  
（極東開発工業 横浜工場の中型リヤダンプトラックボデー自動化ライン）

## 3 2020年度トピックス

IoTを利用した管理支援システム  
「K-DaSS®」で適切な製品管理を実現

IoTを利用して特装車の稼働状況を記録・蓄積する車両管理支援システム「K-DaSS®※」において、新たにごみ収集車とパワーゲート®のお客様向けアプリ・Webサービスを展開しました。K-DaSS®を導入することで、保守・メンテナンス・入出力に関する情報の確認と車両の使用状況や状態をタイムリーに把握することが可能になります。

K-DaSS®によって、トラブルの未然防止や発生時の迅速な対応が可能になるだけでなく、お客様の日々の業務の効率化を支援していきます。



「K-DaSS®」アプリによる車両状態確認の様子

※K-DaSS®…ケーダス(Kyokuto Data Sharing Service)

「HARDOX」で  
輸送効率の向上へ

2020年12月より、耐摩耗鋼板「HARDOX」を採用した10トン軽量ホイストリヤダンプトラックの販売を開始しました。

「HARDOX」をボデーに使用することで、強度向上による製品の長寿命化と、軽量化による輸送効率の向上、空荷状態での燃費向上に貢献しています。



新型 10トン軽量ホイストリヤダンプトラック  
（耐摩耗鋼板仕様）

グループで目指す  
国内外の住み続けられるまちづくり

2020年9月、極東開発工業はSATRAC ENGINEERING PRIVATE LIMITED（以下、SATRAC社）の全株式を取得し、グループ会社としました。

SATRAC社はインドの特装車メーカーで、ダンプトラックボデー、トレーラ、タンクローリーなどを製造販売し、インドの社会インフラ整備に貢献しています。

2020年度には、コロナ禍への対応として「除菌散布スプレー車」を開発し、街の衛生環境整備にも取り組んでいます。



除菌散布スプレー車



「K-DaSS®」アプリ・Webサービスイメージ





### 持続可能なものづくりに向けた 自動化の推進

極東開発工業 横浜工場 中型リヤダンプトラックの製缶ボデーラインをリニューアルしました。

当ラインでは、溶接ロボットの増設など製造工程の自動化をすすめる、製品品質の安定と作業の安全性向上を図っています。また、在庫管理や物流をシステム化し、ライン在庫の適正化や停滞ロスなどの課題を解決しています。



中型リヤダンプトラックボデー自動化ラインの様子



### 培ってきた再資源化技術で 循環型社会の形成へ

2021年2月、日立造船株式会社を代表企業とした企業グループで、南薩地区衛生管理組合様より「(仮称)南薩地区新クリーンセンター施設整備・運営事業」を受注しました。

極東開発工業と極東サービスエンジニアリングは、マテリアルリサイクル推進施設(粗大ごみ処理施設)の運営・維持管理を担当しています。

環境事業における納入実績は、この50年で200施設を超えました。今後も様々な環境整備設備やシステムの提案を行い、循環型社会の形成に貢献していきます。



(仮称)南薩地区新クリーンセンター施設  
完成イメージ図



### コインパーキング事業で すすめる地域づくり

極東開発パーキングは、大栄環境株式会社様より神戸ファッションプラザ(KFP)の駐車場管理業務を受託し、2020年4月から営業を開始しました。

コインパーキング「P.ZONE®」の運営事業(駐車場の時間貸)を基盤とし、駐車場全般の管理、受託事業に関する総合的な提案を通じて、地域の交通課題解決と住みやすいまちづくりに貢献していきます。



神戸ファッションプラザ(KFP)のコインパーキング



### 紙おむつと木質バイオマスですすめる エネルギーの地産地消

西天北五町衛生施設組合様より受注の、使用済み紙おむつ燃料化施設「西天北サーマルリサイクルファクトリー」が2021年3月に竣工しました。

当施設は、これまで地域で廃棄・埋め立て処分されていた、使用済み紙おむつと剪定枝などの木質バイオマスをエネルギー利用するための混合燃料製造施設です。

木質バイオマスを太陽熱で乾燥し、滅菌した使用済み紙おむつとともに破碎・混合することで、ペレット状の混合燃料を製造します。

混合燃料は、地域の老人ホームの専用ボイラで給湯熱源として利用され、エネルギーの地産地消に貢献しています。



西天北サーマルリサイクルファクトリー



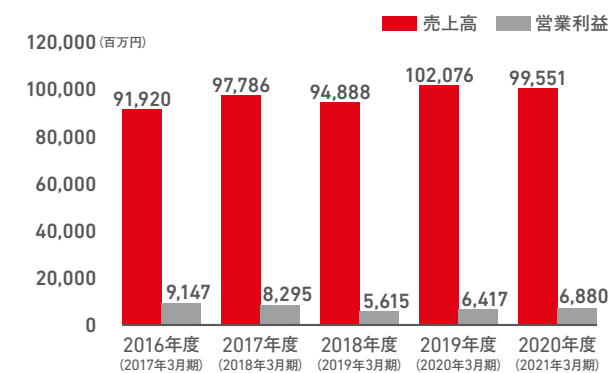
## 4 【地域】住み続けられる「まちづくり」

### 4-1 各事業概要



当社グループは「特装車事業」「環境事業」「不動産賃貸等事業(パーキング事業他)」の3つのセグメントにおいて、国内外のあらゆる地域課題を解決する様々なサービス業務を展開しています。

#### 特装車事業 業績推移



#### 特装車事業

主として、「建設」「物流・省力」「環境」の3分野で活躍する特装車※(はたらく自動車)を製造販売しています。

また特装車の修理、アフターサービス、中古特装車の販売、鉄道車両の製造販売・修理なども行っています。

※特装車…ダンプトラック、タンクローリー、ごみ収集車、コンクリートポンプ車、トレーラ、ウイングボデーなど

#### 2020年度実績

新型コロナウイルスの影響が一部で見受けられましたが、期を通してみると、目立った納期遅れなどもなく業績は堅調に推移しました。

#### 2020年度トピックス

##### 【極東開発工業】

- ・自動吸水式 新型「スーパー散水車」を発売
- ・画像認識 AI 搭載の安全支援システム「KIES®(キーズ)」を発売  
⇒p.37参照
- ・10トン軽量ホイストリヤダンプトラックを改良、耐摩耗鋼板仕様を追加発売  
⇒p.22参照
- ・「K-DaSS®」のごみ収集車、パワーゲート®向けアプリ・Webサービスを新展開  
⇒p.22参照
- ・コロナ緊急ODA案件による給水車の受注(ラオス向け9台、ソロモン諸島向け2台、シエラレオネ向け1台)



自動吸水式 新型「スーパー散水車」

##### 【エフ・イ・オート】

- ・株式会社ネクスコ・メンテナンス関東様、株式会社ネクスコ東日本エンジニアリング様向け「作業車架装工事」実施(3台)

##### 【SATRAC社】

- ・コロナ禍への対応として「除菌散布スプレー車」を開発  
⇒p.22参照

##### 【極東開発(昆山)機械有限公司】

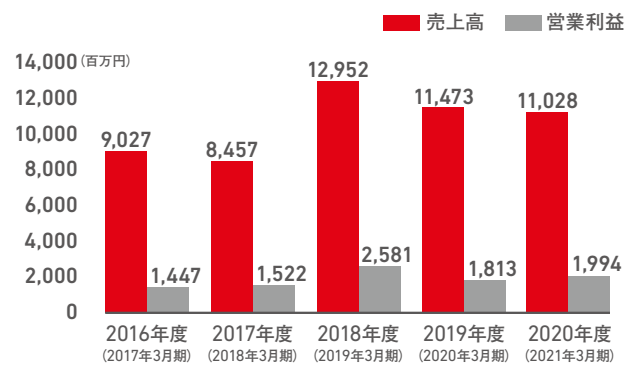
- ・台湾向けミキサートラックを受注(52台)

##### 【北陸重機工業】

- ・株式会社総合車両製作所様向け「新型リチウムイオンバッテリーロコモティブ」受注(2台)
- ・ミャンマー国鉄様向け軌道モーターカーの出荷



## 環境事業 業績推移



## 2020年度トピックス

## 【極東開発工業】

- ・食品廃棄物のメタン発電処理を行うバイオガスプラント「食品リサイクル工場」が竣工
- ・「(仮称)南薩地区新クリーンセンター施設整備・運営事業」を受注  
⇒p.23参照

## 【極東開発工業・極東サービスエンジニアリング北海道】

- ・使用済み紙おむつ燃料化施設「西天北サーマルリサイクルファクトリー」が竣工  
⇒p.23参照

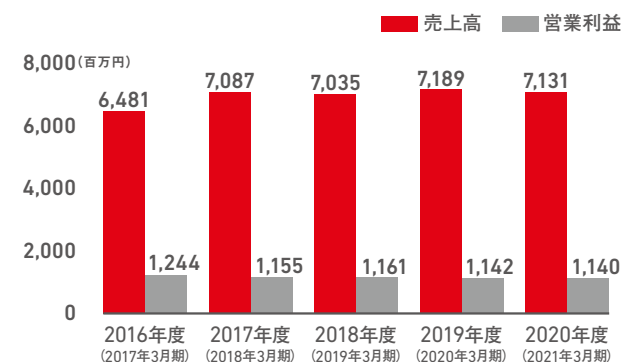
## 【モリプラント】

- ・大栄環境株式会社様 三重リサイクルセンター敷地内のたい肥化施設設備を受注



食品リサイクル工場（バイオガスプラント）

## 不動産賃貸等事業（パーキング事業他）業績推移



## 2020年度トピックス

- ・神戸ファッションプラザ(KFP)の駐車場管理業務を受託、営業開始  
⇒p.23参照
- ・警視庁神田警察署様に機械式駐車装置を納入



神田警察署 機械式駐車装置

## 環境事業

リサイクル施設※や設備の製造販売、メンテナンス、運転・管理業務を行っています。

※リサイクル施設…粗大ごみ処理施設、リサイクルセンター、ごみ固形燃料化施設、バイオガスプラントなど

## 2020年度実績

定期的に新規受注を確保し、一定の受注残高を維持しながら複数の建設工事を同時並行ですすめています。

竣工する物件が少ない期であったため、売上高は前年度より減少しましたが、運転受託やメンテナンスなどのストックビジネス分野では、4施設の運転を新たに受託するなど堅調に推移しており、営業利益は前年度より増加しました。

## 不動産賃貸等事業（パーキング事業他）

マンション向け立体駐車装置の製造・据付・販売、コインパーキングの運営を行っています。

一部の保有不動産の賃貸やメガソーラー発電所の運営、損害保険代理店業務なども行っています。

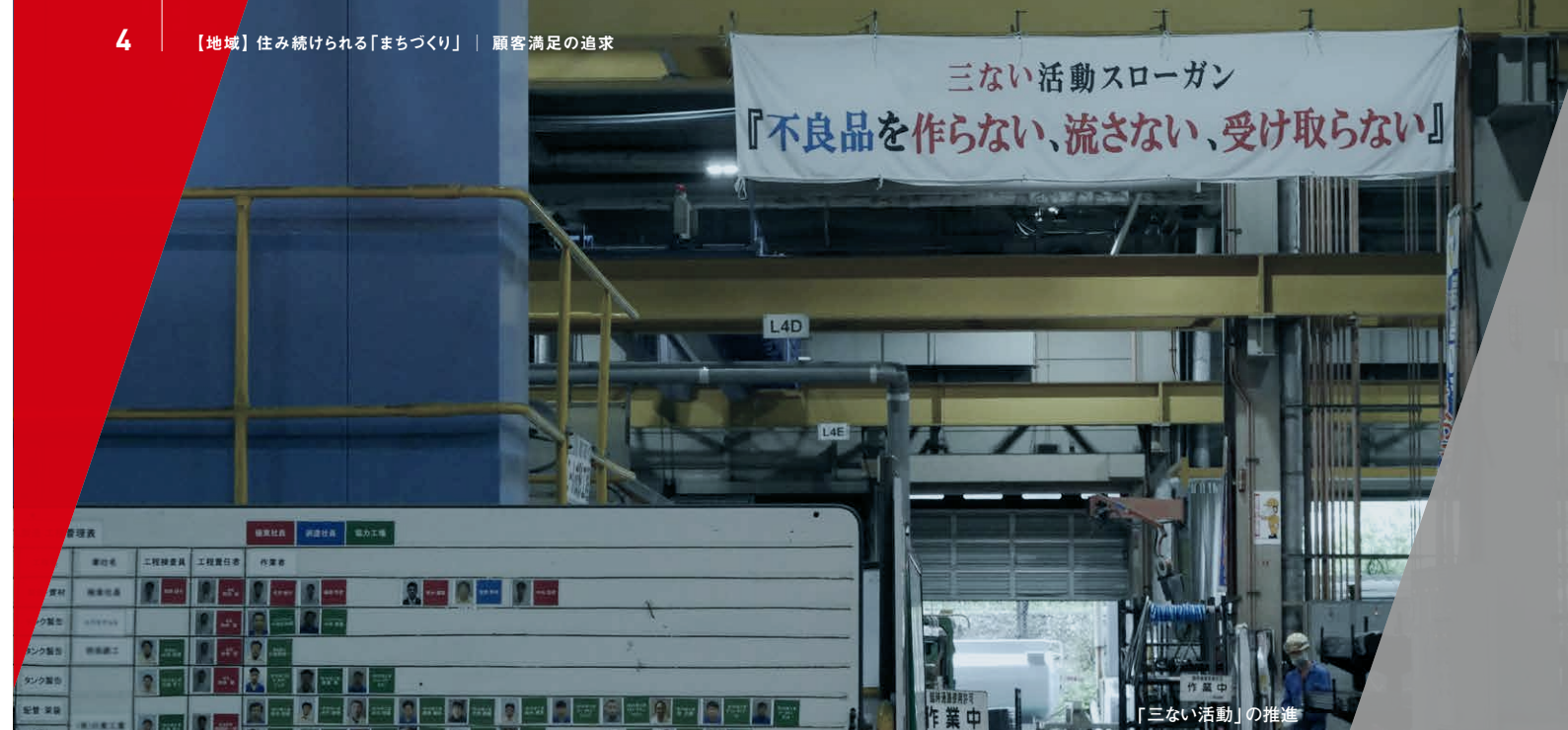
## 2020年度実績

立体駐車装置事業は新規物件の受注活動と併せ、リニューアル及びメンテナンスなどのストックビジネスに継続して注力しました。

コインパーキング事業はコロナ禍による稼働率の低下が続いたことを受けて、トータルコストの削減を行い利益の確保に努めました。

(機械式立体駐車装置:54物件納入、コインパーキング:53物件・1,215車室オープン)

また、一部の保有不動産の賃貸も安定収益として業績の下支えを担っています。



## 4-2 顧客満足の追求



お客様のニーズに応える製品・サービスを提供するために、技術・品質向上を目的とした教育やアフターサービスの充実など様々な取り組みをすすめています。

## 品質向上と技能伝承

## 三ない活動

社内プロジェクト「Q-Pro(Quality Project)」にて、品質向上のための様々な活動を推進しています。

2020年度からはお客様目線の品質を定着するために、全工場の全工程において「三ない活動（不良品を作らない、流さない、受け取らない）」に取り組んでいます。

## 「三ない活動」の目標

- ① 生産に携わる、協力会社を含む作業員全員が品質改善活動に参加し、成果を出す。
- ② やり直しのムダを徹底的に減らし、次工程に不良品を絶対に流さない仕組みをつくる。
- ③ 前工程の不良を検出したら、前工程に責任をもって手直しをさせる。
- ④ 生産現場でPDCAをまわしたQC活動※。

※QC活動…品質管理に関わる活動

## 技能講習会・検定

製品の品質向上と技能伝承を目的に、技能講習会や教育を実施しています。

また、実際に製品づくりに携わる作業者を対象に「溶接技能検定」や「塗装技能検定」を行い、重要部位に関する品質を担保しています。

コンテスト形式で行うこの検定は、技能向上の動機付けにもなっています。



溶接技能検定（WEB会議による多元中継）

## お客様の声への対応

お客様相談窓口を通していただいた製品やサービスに関するご意見やご要望を、今後のより良い製品づくりやサービスの改善につなげています。

またお客様の期待に沿えるよう、グループ各社でお客様へ顧客満足度調査を実施し、品質やスキルの継続的向上を目指しています。

※製品の不具合に関する情報（リコール・改善対策・サービスキャンペーン）はホームページにてご確認いただけます。

## サービスの充実

## サービス拠点

お客様に納品した製品をいつまでも安全かつ効果的にご利用いただくために、全国に約430の拠点を配置し、充実したサービスを提供しています。





タンクローリーの溶接作業



サービス担当者の作業風景



愛知県豊川市のマスコットキャラクター「いなりん」デザインの日本トレス車両

## 4-3 地域への参画



持続可能な地域社会の構築に向けて、製品を通じた地域づくり(p.24～p.25参照)だけでなく、あらゆる場面で地域課題の解決や地域への参画に取り組んでいます。

### サービス講習会

製品の「取扱」「安全」「技術」など修理やメンテナンスに関する講習会を、実際にお使いいただいているお客様と指定修理工場を対象に開催しています。



資格取得研修の様子

### 車両管理支援システム「K-DaSS®」

IoT基盤を利用した独自の車両管理支援システム「K-DaSS®」を開発・販売しています。

K-DaSS®は車両の稼働データを記録・蓄積することで、連携させたアプリ・Webサービスで車両などの様々な情報がデジタル管理できるIoTシステムです。

K-DaSS®の導入によって、お客様への適切なメンテナンスと製品の提案が可能になると同時に、お客様の日々の業務の効率化、省力化を実現しています。

### メンテナンスパック

製品使用中に発生する突然の故障やトラブルを未然に防止するため、定期点検や整備などを定額で行うサービス「メンテナンスパック」をお客様に提供しています。2017年度からはさらに内容を充実させた「パーフェクトメンテナンスパック」の販売を開始し、より安心して製品をご使用いただけるよう取り組んでいます。

### お取引先様との関係づくり

#### 情報交換会

グループ各社において、定期的にお取引先様との情報交換会を開催し、サービスや品質の向上につなげています。

情報交換会では、当社グループを取り巻く情勢の変化や生産などに関する情報を共有し、意見交換の場を設けています。

### 定期調査

公正に取引を行うために年1回、取引実績、信用状況、経営内容、技術水準などについてお取引先様の審査を実施しています。

### 社内協力会社 表彰制度

製品品質に対する意識向上とモチベーションアップを目的に、2017年度から製品品質の向上に寄与した社内協力会社への表彰を行っています。

### 地域との共生

#### 地域環境保全

グループの各拠点において、事業所周辺の地域清掃を行っています。

極東開発工業は、西宮市の環境施策や取り組みについて評価・アドバイスをを行う「西宮市環境計画評価会議」に、市内企業の代表として参加しています。



地域清掃の様子

#### 地域防災への取り組み

工場での火災から地域社会を守ると同時に、事業継続に支障をきたさないよう地域の自衛消防団へ参加しています。

極東開発工業 三木工場においては、地域の消防団と連携して消火活動を行う「企業連携消防団」へ加入しています。

#### 地域活性化への取り組み

地域団体が主催する様々な祭りやイベントに出展・協賛しています。イベントへの製品出展などを通じて、地域の方々に「はたらく自動車」の社会における役割を理解してもらうと同時に、地域の産業振興や地域活性化にも貢献しています。

2020年度は、予定されていた多くのイベントがコロナ禍で中

止となってしまいました。

そのような中2021年3月、日本トレスは自社の資材運搬車のボディに、愛知県豊川市のマスコットキャラクター「いなりん」と豊川市花のさつきを取り入れたデザインのペイントを施し、地域に親しまれる車両を製作しました。

### コンビニ運営

日本トレスが本社敷地を利用して運営するコンビニエンスストア「ローソン」は、従業員だけでなく一般のお客様にも多くご利用いただいています。従業員への福利厚生としてだけでなく、暮らしやすい街づくりにも貢献しています。

### 次世代の育成

#### 工場・施設見学会

ものづくりへの関心と地域産業への理解を深めてもらうことを目的に、地域住民や学生などを対象に工場や完成施設の見学会を開催しています。



北陸重機工業 工場見学会の様子



## 次世代の育成

### インターンシップ、職場体験学習生の受け入れ

就業体験をしてもらうことで、学生たちに職業観の形成やキャリアプランの構築などを学んでもらい、将来の就職活動で活かすことができるよう支援しています。

### 学校訪問

PT. Kyokuto Indomobil Manufacturing Indonesiaでは、工業団地内の日系企業の会議体に参加し、近隣の学校へ寄付と訪問を行っています。寄付金はより良い教育現場づくりのために使われ、学校のトイレや廊下の修繕、筆記用具や備品の購入などにあてられています。訪問の際には、歌やゲームで学生たちとの交流も図っています。



学校訪問の様子

### 「わたキャラ」への協力

極東開発工業では、女子大学生が企業研究を通じて自身のキャリアを考える「わたしのキャリア研究会(通称:わたキャラ)」に協力し、次世代を担う学生の育成に協力しています。

2020年度は13名の方が極東開発工業の研究に参加下さり、「従業員が長く活躍できる環境とは～あったらいいな こんな制度・設備～」をテーマに学生視点で取り組みを研究し、発表いただきました。

### 取材協力

地域のテレビ局やラジオ局、雑誌などの取材に協力し、地域企業としての役割をPRしています。

### 2020年度 出演実績

#### 【極東開発工業】

テレビ東京「知られざるガリバー～エクセレントカンパニーファイル～」で紹介(4月)、テレビ東京「しまじろうのわお!」ものの仕組みコーナー 制作協力(12月)、ラジオ関西「就活応援番組 ネイビーズアフロのレディGO! HYOGO」に出演(2月)

#### 【日本トレックス】

名古屋テレビ「反転の光」に出演(6月)、東海ラジオ「東海ものづくり大学」に出演(9月)、中部電力「交流」に掲載(6月)

#### 【北陸重機工業】

テレビ新潟「新潟一番」に出演(9月)、新潟放送「ゆうなび」に出演(12月)、新潟市東区歴史浪漫プロジェクト実行委員会取材協力(10月)

### 子ども向けコンテンツ「はたらく自動車大研究」

ホームページで、子どもをターゲットとしたコンテンツ「はたらく自動車大研究」を展開しています。当社グループの製品を視覚的にわかりやすく楽しく紹介し、毎年イラスト作品の募集なども行っています。



ホームページコンテンツ「はたらく自動車大研究」  
URL: <https://www.kyokuto.com/hataraku/>



### 学習教材「はたらく自動車ドリル」

小学校高学年向けに特装車の種類や製造方法、社会的な役割など様々なことを学べる教材を発行しています。



はたらく自動車ドリル

### ミニカー・ペーパークラフト

京商株式会社の「京商オリジナルシリーズ」と「Samuraiシリーズ」(ミニカー)に、当社グループの製品がラインナップされています。

またキャノン株式会社が運営する「キャノン クリエイティブパーク」には、当社グループ製品のペーパークラフトが各種掲載されています。



極東開発工業製品「グランデッカー®」のペーパークラフト

京商オフィシャルホームページ  
URL: <https://dc.kyosho.com/ja/>



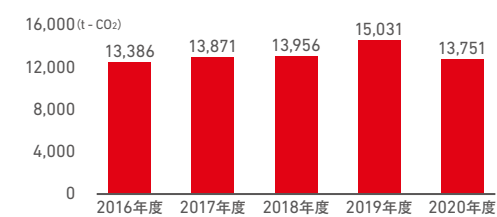
キャノン クリエイティブパーク  
URL: <https://creativepark.canon>



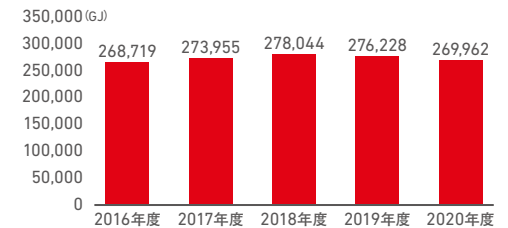
# 5 【環境】地球環境に配慮した「ものづくり」

## 5-1 環境関連データ ※極東開発工業単体

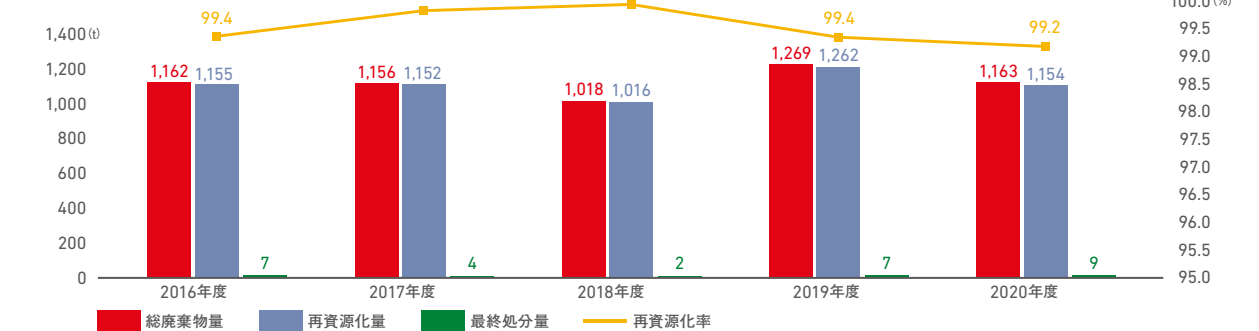
### CO<sub>2</sub>排出量



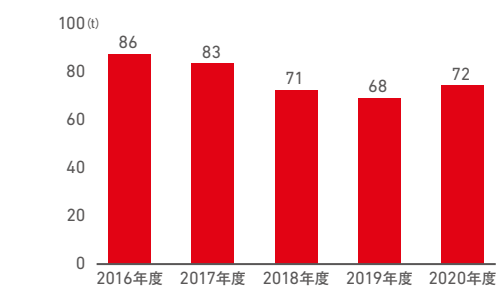
### 投入エネルギー



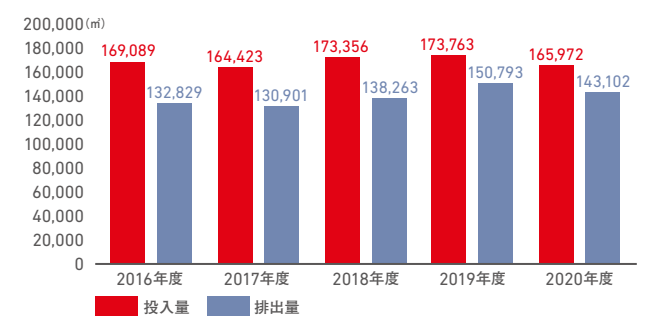
### 廃棄物管理



### VOC排出量



### 水資源投入量・排出量





5-2 脱炭素社会に向けて



様々な施策を通じて脱炭素社会の実現に向けて取り組み、持続可能なものづくりをすすめています。

温室効果ガス削減

当社グループは、従来から施設・設備の省エネ型への切り替え、生産工程をはじめ事業全体におけるあらゆるムダの削減を通して、消費エネルギーと温室効果ガスの削減をすすめています。コロナ禍においては、在宅勤務やWEB会議を導入することで、移動に伴い間接的に排出されるCO<sub>2</sub>抑制に貢献しました。

サプライチェーン全体におけるCO <sub>2</sub> 排出量(単位:t-CO <sub>2</sub> )	
自社での燃料使用に伴う直接排出 【スコープ1】	4,248
外部から購入した電力や熱の使用に伴う間接排出 【スコープ2】	9,503
自社の事業活動範囲外での間接排出 【スコープ3】	89,457
合計	103,208

おことわり

これまで掲げてきた「温室効果ガス削減に関する中期目標」については、2021年4月に公表された政府指針(2030年までに2013年度比46%削減)に合わせて現在調整中です。

《参考:旧目標値》  
事業活動によって直接排出されるCO<sub>2</sub>の量を2025年度までに21%、2030年までに25%削減する。  
※いずれも2012年度比

太陽光発電実績(単位:kWh)

福岡工場(1.5MW規模)	1,789,776
旧東北工場(1.5MW規模)	2,166,445
音羽事業所(0.35MW規模)	521,956
合計	4,478,177

気候変動リスクへの対応

当社グループは「気候変動への対応」を経営上の重要課題と認識し、関連するリスク(機会を含む)を評価・管理することで事業継続性を確保しています。

以下のリスクは、CSR室と関係部門がIEAによるシナリオ及びIPCC「第5次評価報告書」をもとに作成し、社内の「BCP委員会」が評価したものを、トップマネジメントが最終承認し、決定しています。

当社グループの気候変動リスク

リスクの分類		事業インパクト		取り組み
大分類	小分類	指標	考察	
移行リスク 脱炭素社会に向けて社会体制が変化する際に発生するリスク	炭素価格	支出 <sup>※1</sup>	・炭素税の導入により調達資材及びその輸送燃料に課税され、輸送コストが増加する。 ・炭素価格の高い国における製造コストが増加する。	・カーボン価格政策動向のモニタリング
	エネルギーミックスの変化	支出	・エネルギーミックスによる排出係数の変化がCO <sub>2</sub> 排出量削減目標に影響を及ぼすため、電力の需給契約の見直しとそれに伴う電力コストが増加する。	・省エネの推進 ・低排出係数の電力会社への切り替え
	平均気温の上昇	支出	・工場での熱中症など室温管理に関する対策コストが増加する。	・工場内空調設備の拡充 ・工場建屋の断熱対策
	干ばつなど水ストレス	収益 <sup>※2</sup>	・異常乾燥による道路の砂塵抑制及び植樹保守のための散水車需要が増加する。	・タンクローリー製造ラインの拡充

リスクの分類		事業インパクト		取り組み
大分類	小分類	指標	考察	
物理的リスク 気候変動に関連して発生する、熱波や干ばつ、洪水、暴風雨、海面上昇などのリスク	異常気象の激甚化	支出 収益	・ゲリラ豪雨や台風などが多発することで在庫への被害や生産設備のトラブルが発生した場合、修正ならびに復旧コストが増加する。 ・委託先や供給網が被害を受けることで資材などの供給に異常があった場合、工場の稼働が停止または停滞する。 ・河川の氾濫や洪水被害などを受けた被災地向けの救援用給水車や災害廃棄物の回収のための車両の需要が増える。 ・都市の防災に関するインフラ整備の拡充に伴い、土木系特装車の需要が増加する。	・自社及びサプライチェーンにおけるリスクアセスメント ・工場内への水の浸入対策 ・タンクローリー製造ラインの拡充 ・中型リヤダンプトラックボデーラインのリニューアル ・脱着式コンテナの製造ライン拡充
	生物多様性の変化	支出	・未知の病原菌によるパンデミックなどにより事業活動が停止または停滞することで、売上高及びステークホルダーへの信用が低下する。	・間接部門を中心とした時差出勤や在宅勤務の推進

※1 支出…収益にマイナスの影響が出る ※2 収益…収益にプラスの影響が出る

太陽光発電

極東開発工業の福岡工場、旧東北工場の敷地、日本トレックスの音羽事業所の3か所において、太陽光発電を行っています。



旧東北工場敷地内の太陽光発電パネル

社用車へのエコカー導入

当社グループでは、社用車を電気自動車やハイブリッド車に切り替え、排気ガスによる環境汚染の防止とCO<sub>2</sub>排出量の抑制に努めています。

社用車のエコカー比率(トラックを除く):63% (2021年3月現在)
--



電気自動車の社用車

工場内照明のLED化

グループ全体で、工場内照明のLED化を推進しています。極東開発工業 横浜・名古屋・福岡の3工場ではLED化を100%達成しています。また三木工場においても84%がLED化されています。(2021年3月現在)

大雨・洪水などの気候変動リスクの実態把握

2020年度、極東開発工業では横浜・名古屋・三木・福岡の4工場のサプライヤーに対して、気候変動に伴う災害リスクに関する説明会とアンケート調査を実施しました。

(単位:社)				
	横浜工場	名古屋工場	三木工場	福岡工場
主要取引業者	39	45	54	37
大雨浸水対象区域	10	9	7	10
土砂災害指定区域	1	3	2	3
災害時に安定供給が危ぶまれるサプライヤー	7	10	8	7

調査:2020年10~12月 調査委員会・CSR室



## 5-3 循環型社会に向けて



事業活動で発生する廃棄物削減や製品のリサイクルを通して3Rを推進しています。

※製品を通じた循環型社会への貢献については、p.23、p.25参照

### 廃棄物の削減

グループ全体で廃棄物削減に向けて取り組みを推進しています。

極東開発工業では従来からゼロエミッションを掲げ、工場で排出されるスクラップや梱包材などの廃棄物の99%以上をリサイクル原料として再利用しています。

### 製品の再利用への取り組み

2020年度、エフ・イ・オートでは一般社団法人 日本外交協会からの依頼を受け、地方自治体などで役目を終えた車両15台を改造・整備を施し、ごみ収集車や消防車などを途上国向けに寄贈しました。



ミクロネシアに寄贈したごみ収集車

### 製品における3Rの推進

製品設計において、部材の重量軽減や再生品由来の材料を使用するなど3R(リデュース・リユース・リサイクル)に関する独自の評価基準を設定しています。

また、一般社団法人 日本自動車車体工業会が制定する「3R判断基準ガイドライン」の基準を満たす製品については「環境基準適合ラベル」の貼付を推進しています。

ホームページ上には製品の解体マニュアルを掲載し、解体業者が安全かつ確実に部品をリサイクルできる体制を整備しています。



環境基準適合ラベル

## 5-4 自然共生社会に向けて

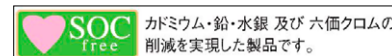


製品のバリューチェーン上で生じる環境汚染を把握し、発生を抑制しています。多様な生物が共存する自然共生社会の実現に向けて植林活動なども行っています。

### 化学物質の管理

SOC(人体や環境に有害な化学物質)を使用しない製品づくりをすすめています。

SOCフリーの製品については、製品カタログやパンフレットにマークを付けて表示しています。



SOCフリーのマーク

### CSR 調達

自社の利益だけでなく、環境や社会全体に与える影響に責任を持った事業活動を推進しています。サプライチェーン全体を通じて企業の社会的責任を果たすために、環境や人権に配慮した「CSR調達ガイドライン」(ホームページ参照)を制定し、取り組みをすすめています。

### 植林活動

日本トレスでは、2004年5月よりマレーシアのサバ州にてアカシアの自社植林を行い、限りある森林資源との共生を推進しています。自社植林をしたアカシア丸太は床板製品として使用し、活用しています。



植林したアカシア



自社植林のアカシアを使用した製品

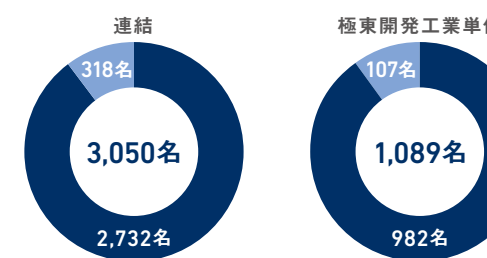
## 6 【人】一人ひとりが尊重される「社会づくり」

生産性向上に向けた会議の様子

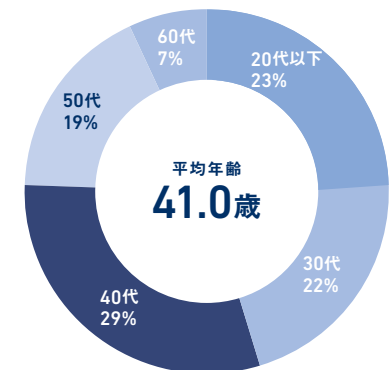
### 6-1 人材関連データ ※2021年3月末現在

#### 従業員数 ●男性 ●女性

※正社員・契約社員の合計人数 ※出向者は出向先に含む

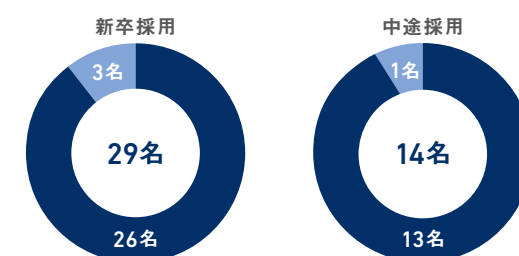


#### 従業員の年齢構成 (極東開発工業単体)



#### 新卒・中途採用者数 (極東開発工業単体) ●男性 ●女性

※正社員の合計人数



育児休暇取得人数 (極東開発工業単体) **12名** 男性:1名 女性:11名

月平均残業時間(連結) **16.1時間** (極東開発工業単体:29.5時間)

※正社員・契約社員・パートの実績 ※海外拠点は制度が異なるため実績に含まない

通信教育受講者数(連結) **402名** (極東開発工業単体:233名)

※同一受講者が複数講座受講している場合、二重でカウント

再雇用人数 (極東開発工業単体) **44名**

外国人技能実習生数 (極東開発工業単体) **59名**

障がい者雇用人数、雇用率 (極東開発工業単体) **29名 2.35%\***

※障がい者雇用率は2021年6月末現在

有給休暇平均取得日数(連結) **10.8日** (極東開発工業単体:11.0日)

※正社員・契約社員・パートの実績 ※海外拠点は制度が異なるため実績に含まない

離職率 (極東開発工業単体) **1.4%**

※2018年度の従業員数のうち、2019年度に離職した人数

労災発生件数(連結) **56件** (極東開発工業単体:18件)

※軽微なものを含む





「2020年度チーム賞」受賞の多能化工程チーム



安全作業研修車での研修



エフ・イーが運営する社員食堂

## 6-2 働きがいのある職場づくり

8 働きがいも  
経済成長も10 人や国の不平等  
をなくそう

誰もがやりがいや働きがいを実感でき、  
いきいきと働き続けられる、多様性にあ  
ふれた職場づくりをすすめています。

### ワーク・ライフ・バランスの実現

#### 社内プロジェクト「働き方改革プロジェクト」

2019年度より、社内で「働き方改革プロジェクト」を立ち上げ、全社的な業務効率と生産性の向上、職場環境の改善を推進しています。

今後も様々な施策を通じて、社内コミュニケーションの活性化と効率化、製造工程や事務作業における効率化などに取り組んで参ります。

#### フレキシブルな勤務形態

従業員が長く働き続けられるよう、ライフスタイルに合わせた柔軟な働き方を推進しています。

育児や介護による短時間勤務や休暇制度、フレックスタイム制の導入、コロナ禍の感染防止対策として在宅勤務や時差出勤を取り入れています。

### 多様な人材活用

#### 障がい者雇用の促進

当社グループでは障がい者雇用に積極的にすすめています。障がい者の方が長期的に自分らしく働ける職場づくりを目指して、2018年に「きょうとう柏ファーム」、2019年に「きょうとう八千代ファーム」を開設しました。農園で栽培した野菜は、各工場・事業所の食堂で調理して提供されています。



きょうとう柏ファームの作業風景

#### 外国人技能実習生の受け入れ

グループの各工場において、外国人技能実習生を受け入れています。実習生がものづくりの技術や伝統を学び、母国に持ち帰ることで途上国の経済発展に貢献しています。

#### 女性活躍推進

極東開発工業では、女性活躍推進法に基づく「一般事業主行動計画」を掲げ、女性比率の引き上げと女性が活躍できる職場環境の整備をすすめています。

また、「働き方改革プロジェクト」の分科会として「女性活躍推進分科会」を設置し、女性目線で誰もが働きやすい職場づくりに向けて改善をすすめています。

## 6-3 労働安全衛生

### やりがい・働きがい向上への取り組み

#### 人事制度

従業員一人ひとりが、自身に求められる期待や役割を自発的に果たせる人材に成長できるよう、都度人事制度の見直しを行っています。また、従業員自身のキャリア形成の意向や希望などを申告する機会を定期的に設けています。

#### 能力開発制度

職務に必要なスキルを身につける「階層別研修」と、個人のキャリア形成を支援する「キャリア研修」を実施しています。また、「自己啓発通信教育奨励制度」や「資格奨励金制度」など自己啓発に関わる諸制度も設けています。

2020年度からは動画研修サービスも導入し、従業員がより自発的に能力育成に取り組める環境づくりをすすめました。



オンライン研修の様子

#### 従業員表彰制度

当社グループでは毎年、会社の発展に大きく貢献した従業員を対象に表彰を行っています。

「業績貢献」「業務効率の改善」「発明、技能継承、サービスや品質向上、安全衛生への貢献」など様々な分野での表彰を、グループ各社だけでなく社内協力会社の従業員も含めて実施しています。

8 働きがいも  
経済成長も

従業員の安全と健康を経営の最重要課題であると認識し、安全で快適な職場環境づくりを積極的に推進しています。

### 安全パトロール

グループの各拠点において、事業所内の作業や設備の中から不安全な状態・行動などの危険源を見つけ、是正や予防につなげるために「安全パトロール」を実施しています。危険源に関する情報は共有され、グループ全体で類似災害の発生予防に努めています。



安全パトロールの様子

### 安全教育

実際の作業で起こり得る災害を疑似的に体験できる体感装置を用いた、「安全体感教育」を構内で働く全従業員に実施しています。

2020年6月には、体感装置をウイングバンに搭載した「安全作業研修車」が完成し、グループ内の各拠点でフレキシブルな教育を実施しています。



### ユニバーサルデザインを意識した設備改善

極東サービスエンジニアリングでは、作業者の高齢化などの変化を踏まえ、ダイバーシティに配慮したユニバーサルデザインの視点で設備改善をすすめています。

作業エリアの照度、掲示物や危険個所の表示など、誰もが安全かつ効率的に作業できる環境づくりに努めています。



改善によって設置された人感センサー付ライト

## 6-4 健康経営



従業員全員が長く健康に働き続けられるよう、労働組合及び健康保険組合と連携し、健康経営に向けた取り組みをすすめています。

### 健康に関する教育・サポート

従業員の健康をサポートするために、極東開発健康保険組合と協働し各種セミナーやイベントを実施しています。

### グループの主な取り組み

- ・ウォーキングキャンペーン
- ・女性向けセミナーの実施
- ・食堂における健康対策メニューの導入
- ・「TABLE FOR TWOプログラム※1」への参加（極東開発工業、エフ・イー）
- ・「ベジチェック※2」の実施（日本トレクス）
- ・禁煙チャレンジ・サポート制度
- ・二次検査費用補助
- ・インフルエンザ補助金制度

※1 TABLE FOR TWOプログラム…食堂の健康メニューを食べることで、途上国の子どもたちに学校給食をプレゼントする活動

※2 ベジチェック…カゴメ株式会社が提供する、野菜摂取レベルを計測できるデバイス「ベジハンド」を利用したイベント



健康対策メニュー「健康食堂」の看板



ベジチェックの数値測定

### メンタルヘルス不調・ハラスメントの防止

グループ全体において従業員に対するストレスチェックや面談を行い、メンタルヘルス不調を発生させない職場づくりをすすめています。管理職に対しては専門講師による「ハラスメント研修」を実施し、ハラスメントに関する基礎知識や相手が不快に感じる言動などについて教育しています。

また従業員の誰もが利用可能な、職場の倫理違反に関する通報・相談窓口「企業倫理ヘルプライン」を設置しています。匿名性を確保して、相談者が不利益を被らないフォロー体制を整備の上、運用しています。

## 6-5 ものづくりにおける人権配慮



バリューチェーン上の全てのフェーズにおいて、人に優しいものづくりをすすめています。  
※CSR調達についてはp.33参照

### 紛争鉱物の排除、輸出品の安全保障

紛争地域における人権侵害や環境破壊などの原因、武装勢力の資金源となる紛争鉱物（すず、タンタル、タングステン、金）を原材料に使用しない製品づくりをすすめています。

また国際的な平和と安全を維持するために「安全保障輸出規定」を、物品の輸出や技術の提供の際に適用しています。

### 安全で誰もが使いやすい製品づくり

労働市場の変化に伴い、製品ユーザーの多様化がすすんでいます。当社グループはユニバーサルデザインの視点を取り入れた、安全かつ誰もが使いやすい製品づくりをすすめています。

2020年8月、極東開発工業はごみ収集作業における巻き込まれリスクを低減する、安全支援システム「KIES®（キース）」を発売しました。従来、ごみ収集車の収集作業にはさらなる安全対策が求められており、重要な課題となっていました。ごみ収集車にKIES®を装着することで、ごみ収集時の作業性を損ねることなく、より高度な安全性の確保が可能になりました。



KIES®（キース）の検知イメージ

極東開発工業株式会社  
社外取締役  
道上 明

極東開発工業株式会社  
社外取締役  
木戸 洋二

極東開発工業株式会社  
取締役 常務執行役員  
原田 一彦

# 7 社外取締役会談

### 極東開発グループとカーボンニュートラル

**原田：**新型コロナウイルスによって、社会や経済のあり方が大きく変わりました。

新時代への対応という点では、「カーボンニュートラル」の実現はグループにとって大きな課題です。ただ、当社グループはこの課題を「リスク」であると同時に、新たな価値を生み出す「機会」として捉えています。

**木戸：**従来からグループでは、脱炭素社会に資する様々な取り組みを行ってきていますね。（p.31～p.33参照）

今後は、各分野でより具体的な数値目標を掲げるなど、誰もが分かりやすく、一丸となって取り組める仕組みをつくることが求められるのではないのでしょうか。ステークホルダーの関心も高いと思います。

**道上：**投資市場でも動きがありますね。

来春に予定されている株式市場の再編※1に関連して、プライム市場上場企業にはTCFD※2レベルの気候変動に関する情報開示が求められています。

**原田：**毎年、日本のどこかで大雨・洪水による災害が発生し、その度に企業のサプライチェーンにおける対応がメディアで取り上げられています。当社グループもTCFDに準じ、あらゆるシナリオを想定した対策を次の中期経営計画ですすめています。

### リスク対応とコーポレートガバナンス

**原田：**昨今は、SDGsなど「社会の持続可能性」の視点を積極的に経営に取り込むことが求められています。その一方、ガバナンスの重要性もクローズアップされています。

**道上：**2021年6月に、コーポレートガバナンス・コードの一部改訂が行われました。

改訂のポイントは、大きく「①取締役会の機能発揮」「②企業の中核人材におけるダイバーシティ（多様性）の確保」「③サステナビリティ（持続可能性）をめぐる課題への取り組み」「④その他個別項目」でした。

今後、社外取締役の拡充を推しすすめる際には、ジェンダーや国際性、専門性、スキルなどのあらゆる多様性をバランスよく確保する視点が重要となってくるでしょう。

**木戸：**そうですね。取締役に限らず組織全体のダイバーシティへの取り組みは、リクルーティングにも影響するので今後も積極的に検討をすすめる

べきでしょう。その視点で申し上げるなら、特装車の分野でも女性ドライバーが増えつつある中、社外取締役に女性を選任することも適切なアドバイスを得るなどの助けとなるかもしれません。

**原田：**コーポレートガバナンス・コードの改訂をグループのガバナンス機能向上をすすめる好機と捉えて、中長期を見据えた取り組みを推進していきます。

### 「中期経営計画2019-21 ～To the Growth Cycle～」とこれから

**原田：**さて、2021年度は「中期経営計画2019-21 ～To the Growth Cycle～」の最終年度となります。

**木戸：**基本方針に掲げられている「①生産性の向上と利益体質の強化」「②将来の収益源の確保」「③企業品質の向上と社会的価値の深化」については着実に進捗している印象です。

今後は「ニューノーマル」や「IoT・AIによるDX※3対応」とともに、コロナ禍や気候変動など様々なリスクとの共存・対応がステークホルダーからさらに強く求められるでしょう。

**道上：**ご指摘のとおり、コロナ禍や気候変動など様々なリスクとの共存・対応はより一層求められることになると思います。この点、中期経営計画の基本方針のもと着実にすすめられてきた働き方改革や業務改革を今後も一層推しすすめることが、ひいては上記リスクとの共存・対応やコンプライアンスの確保にもつながると考えております。

**原田：**今は「先の見えない厳しい時代」と言われますが、それはあくまでも従来のやり方を前提に考えようとするからです。これを「ゲーム・チェンジ」と捉えると、当社グループにとって社会に貢献できる機会はむしろ増えるはずです。

グループ間シナジーの効果を発揮して次の時代を創っていくことが当社グループの使命です。これからも積極的に社会への対応を図り、持続的成長と社会貢献につなげる企業活動を続けて参ります。

※1 株式市場の再編…2022年4月4日から、新たに東証がプライム・スタンダード・グロース市場に再編される。

※2 TCFD…2016年、金融安定理事会によって設立された「気候関連財務情報開示タスクフォース」。気候変動が世界経済にリスクを与えているに伴い、気候変動関連のリスクと機会について企業に情報開示を求めている。

※3 DX…進化したIT技術を浸透させることで、人々の生活をより良いものへと変革させるという概念。デジタルトランスフォーメーション。





この冊子に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

〒663-8545 兵庫県西宮市甲子園口6丁目1番45号

極東開発工業株式会社 管理本部 CSR室

TEL : 0798-66-1417

URL : <https://www.kyokuto.com/>

社名・商品名・ロゴなどは各社の商標または登録商標です。

